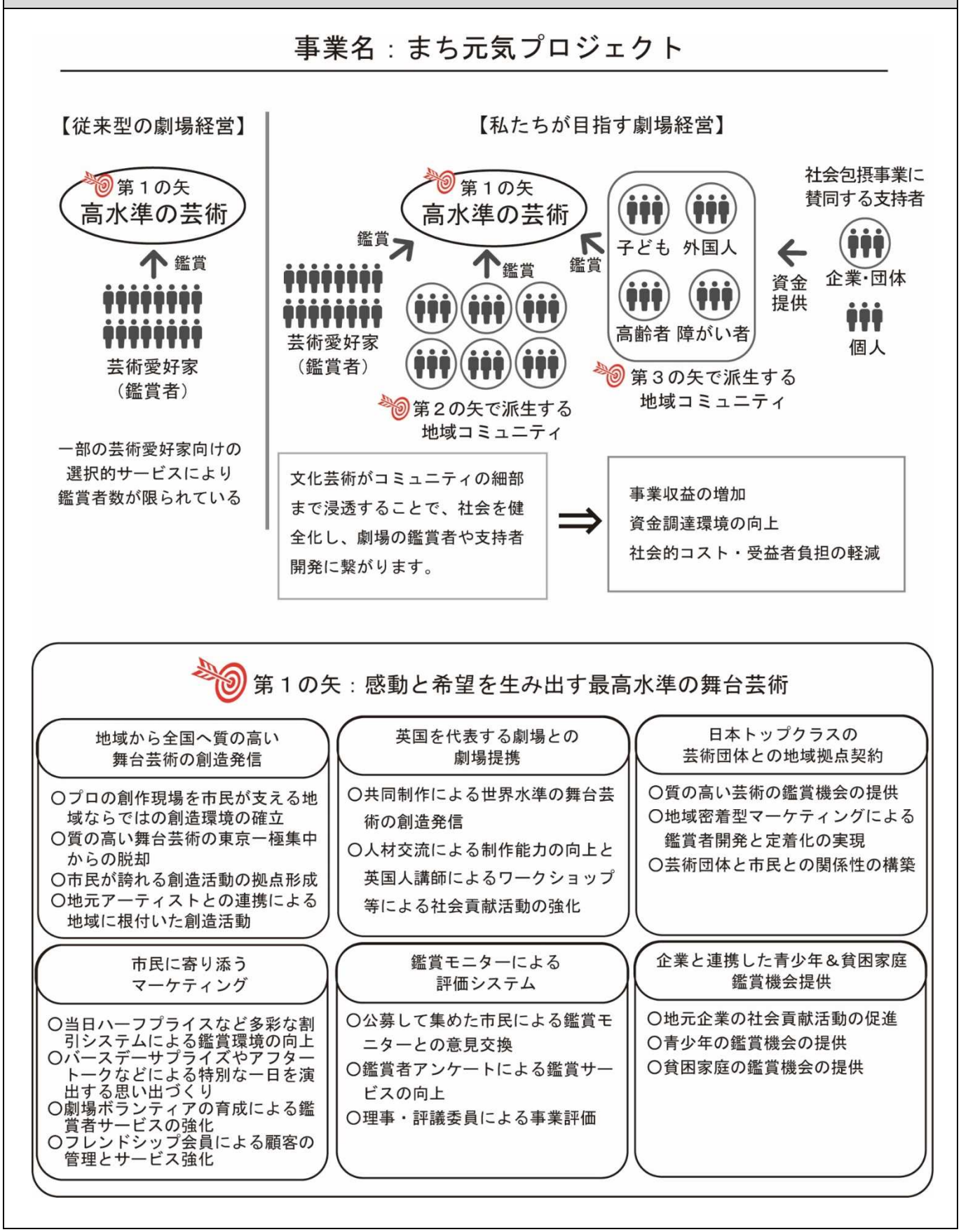
平成３０年～令和４年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
（劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業）
成果報告書

団体名	公益財団法人可児市文化芸術振興財団
施設名	可児市文化創造センター
助成対象活動名	まち元気プロジェクト
助成期間	５　（年間）
内定額	平成３０年度　35,134 平成３１年度　27,113 令和２年度　20,276 令和３年度　43,992 令和４年度　52,426 （千円）

１．事業概要

（１）事業計画の概要

全体図（概念図）



第２の矢：人と人とを繋げていく市民総活躍社会の実現

市民活動の発表の場の提供

○舞台芸術専用のステージと専門的技術スタッフによる市民の発表の場の提供
○市民の芸術活動の広報宣伝協力
○施設利用者アンケートによるサービス強化

コミュニティ作りのワークショップ

○音楽、演劇、伝統芸能などのアーティストによる定期的な講座やワークショップによる芸術活動の活性化と地域コミュニティの創出
○参加者アンケートによるサービス向上
○アーティストと市民の関係性作りの強化

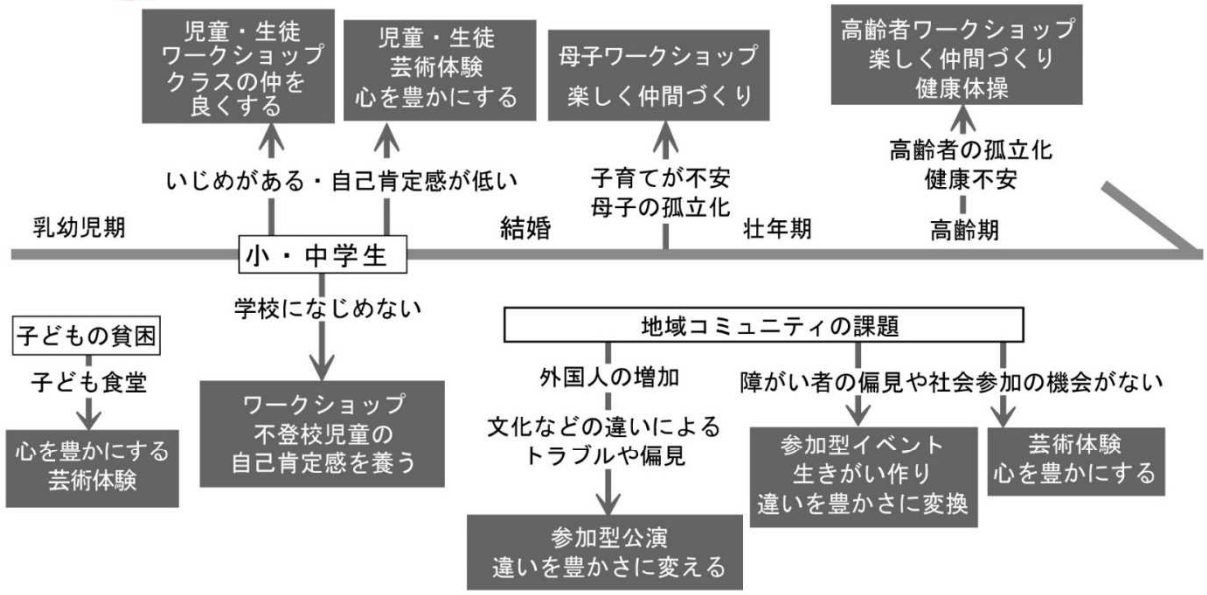
実演芸術家とコミュニティアーツ･ワーカーの育成

○若手実演芸術家の育成による実演芸術の向上
○コミュイニティアーツ・ワーカー育成によおるコミュニティ事業(ワークショップなど)の拡大と質向上。
※コミュニティアーツ・ワーカーとは、地域コミュニティの関係改善のために活動するアーティスト

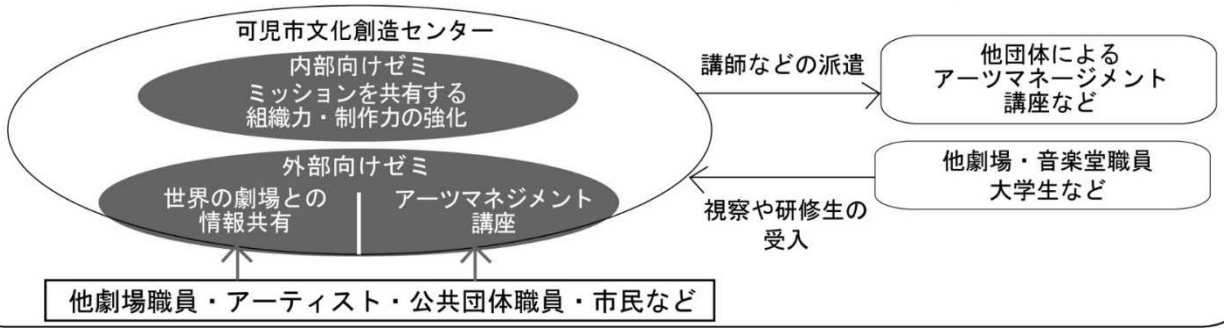
市民参加型の大型公演

○創作活動を通して、参加者同士の絆を深め、最高の思い出づくりを演出
○一流の演出家との共同作業で、質の高い作品を創作し、芸術活動の発展と活性化を促進
○鑑賞者の発掘

第３の矢：生き辛さを解消する文化芸術によるセーフティーネット



組織力と制作能力の強化と同時に、全国に優れた人材を育成



（２）令和４年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	ala Collection シリーズ vol.13『百日紅、午後四時』可児・東京公演	9/26（月）～10/2（日） 10/20（木）～10/27（木） 可児市文化創造センター吉祥寺シアター	作・演出：鈴木聡、出演：市毛良枝、陰山泰、福本伸一、朝倉伸二、瓜生和成、弘中麻紀、岩橋道子、平体まひろ	目標値 実績値	1,620 2,201
2	君といた夏～スタンドバイミー可児～	3/4（土）、3/5(日） 可児市文化創造センター・主劇場	作 ： 瀬戸口郁、演出 ： 黒田百合、音楽 ： 上田亨、出演：市民 92 名（6 歳～78 歳）	目標値 実績値	1,600 1,417
3	新日本フィルハーモニー交響楽団　サマー・コンサート 2022		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値 実績値	750 －※
4	文学座『欲望という名の電車』	11/9（水）、10（木） 可児市文化創造センター・小劇場	原作： T・ウィリアムズ、翻訳・脚色・翻案：小田島恒志、演出： 高橋正徳、出演：中川雅子、山本郁子、渋谷はるか、千田美智子、柴田美波、磯田美絵、小林勝也、大滝寛、他	目標値 実績値	500 410
5	シリーズ恋文 vol.12	11/26（土）、27（日） 可児市文化創造センター・小劇場	構成・演出：藤井ごう 出演者：北村有起哉、山田真歩 ピアノ：黒木由香	目標値 実績値	400 361
6	多文化共生プロジェクト 2022	8 月 14 日（日） 13:30/16:00 可児市文化創造センター・演劇ロフト	脚本・演出：鹿目由紀／演出補助：カズ祥／アドバイザー：住吉エリオ、山田久子／出演：外国にルーツを持つ人 15 名	目標値 実績値	160 126
7	森山威男ジャズナイト 2022	9 月 17 日（土） 可児市文化創造センター・演劇ロフト	[出演者] 森山威男(ds)、渡辺ファイアー(as)、川嶋哲郎(ts)、中山拓海(as)、魚返明未(pf)、冨樫マコト(b)、中路英明(tb)、相川瞳(per)	目標値 実績値	600 505
8	新日本フィルハーモニー交響楽団　ニューイヤー・コンサート 2023	1 月 9 日（月・祝） 可児市文化創造センター・主劇場	管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団　　指揮：角田鋼亮	目標値 実績値	800 815
9	新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによるオープン・シアター・コンサート	6 月 24 日（金） 可児市文化創造センター・主劇場	1stVn：竹中勇人、岸田晶子、田村直貴(MC)、山口幸子／2ndVn：小池めぐみ、深谷まり、山﨑恵子／Va：間瀬容子、吉鶴洋一 Vc：サミュエル・エリクソン、矢野晶子、ほか	目標値 実績値	500 272
10	文学座とつくるファミリー舞台	5 月 5 日(木・祝) 可児市文化創造センター・演劇練習室	演目／『猫の事務所』 演出／稲葉賀恵、出演:（市民参加者）：石田智歌、大野由美子、大屋明美、奥村康博、勝川美海、鬼頭明美、坂井祐子、月川まゆ、林 多	目標値 実績値	50 52
11	反田恭平プロデュースジャパンナショナルオーケストラ	11 月 2 日(水) 可児市文化創造センター・主劇場	出演／ジャパン・ナショナル・オーケストラ反田 恭平(ピアノ/指揮)、大江 馨、ほか プログラムベートーヴェン：「レオノーレ」序曲第 3 番 作品 72a ほか	目標値 実績値	700 971
12	平田オリザ「対話を考える」ワークショップ	7 月 29 日（金） 可児市文化創造センター・レセプションホール	内容／①劇の手法を活用した教職員向けコミュニケーション・ワークショップ実践講座、②教育関係の市職員向け講義・座談会 講師]／平田オリザ（劇作家・演出家）	目標値 実績値	40 40
13	森山威男ドラム道場	4 月～3 月の毎週月曜 可児市文化創造センター・音楽ロフト	市内在住のジャズドラマー・森山威男氏を講師に迎え、その高度な演奏技術を学べる機会を提供するもの。	目標値 実績値	276 216

14	アーラ未来の演奏家プロジェクト	6／1（水）～5（日） 可児市文化創造センター。市内小学校２校	コーディネーター／佐野秀典（作曲･編曲家）、出演者／斎藤龍（ピアノ）、篠塚友里江（クラリネット）	目標値	800
				実績値	573
15	フロントスタッフ研修	6/26(日)、7/10(日)、8/20(土)、1/9(月・祝) 可児市文化創造センター	内容／座学、実地研修 講師／星乃もと子（Theatre Management Plan Co Ltd.　代表）	目標値	20
				実績値	36
16	劇場に関わる人のためのアーツマーケティングゼミ「あーとま塾 2022」	6/16(木),17(金),9/15(木),16(金),12/22(木),23(金) 可児市文化創造センター・レセプションホール	塾長：衛紀生、ゲスト：田代洋久、堀田聰子、藤岡聡子、湯浅誠、事例報告：半田将仁、栗田康弘、モデレーター：落合千華	目標値	90
				実績値	136※
17	シアターキャンプ～セントメリーズ大学（英国）との演劇交流プログラム		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	20
				実績値	－※
18	歌舞伎とおしゃべりの会	4 月～3 月 可児市文化創造センター・映像シアターほか	講師／中村橋吾、木ノ下裕一、葛西聖司、ゲスト／松井誠	目標値	410
				実績値	382
19	アーラ紙芝居一座　市内巡回公演	1 月 21 日（土）、3 月 26 日（日） 可児市文化創造センター・共有スペースほか	演目／『おおきなかぶ』『ももたろう』『ながぐつをはいたねこ』 出演者／アーラ紙芝居一座メンバー10 名程度	目標値	50
				実績値	参加 13,入場 27
20	おでかけ落語会	10 月 18 日（火）～21 日（金） 蘇南中、中部中、西可児中、東可児中、広陵中	出演／桂やまと	目標値	1,100
				実績値	841
21	文学座俳優のキッズワークショップ	8 月 20 日（土）、21(日) 可児市文化創造センター・演劇ロフト	講師(演出)／高橋ひろし、発表会演目／ミュージカル『アニー』より「ハードノックライフ」	目標値	15
				実績値	12
22	新日本フィルハーモニー交響楽団おでかけコンサート	6/21(火)～23(木) 桜ヶ丘小、兼山小、土田小、東明小	出演／1stVn：田村直貴、2ndVn：深谷まり、Va：間瀬容子、Vc：サミュエル・エリクソン（新日本フィルハーモニー交響楽団メンバー）	目標値	500
				実績値	266
23	まちが元気になる処方箋	4 月 20 日（水） 可児市文化創造センター　小劇場	出演／篭橋義朗、堀部好彦、中貝宗治	目標値	50
				実績値	114
24	みんなのディスコ	6 月 18 日（土） 可児市文化創造センター・音楽ロフト	MC／川名洋行、参加／ボランティアスタッフ、可茂学園、愛の家グループホーム可児広見	目標値	100
				実績値	54
25	児童・生徒のためのココロとカラダのワークショップ	前期 4 月～7 月、後期 10 月～12 月 各小中学校ほか	講師／新井英夫（ﾀﾞﾝｽｱｰﾃｨｽﾄ）、Ten seeds（劇・遊び・表現活動）、アシスタント／板坂記代子、松岡恭子	目標値	1,550
				実績値	911
26	ココロとカラダワークショップ	前期 4 月～7 月の水曜、後期 10 月～12 月の水曜 可児市文化創造センター・レセプションホールほか	講師／新井英夫（ﾀﾞﾝｽｱｰﾃｨｽﾄ）、Ten seeds（劇・遊び・表現活動）、アシスタント／板坂記代子、松岡恭子	目標値	780
				実績値	787
27	世界劇場会議 国際フォーラム 2023 in 可児	1 月 26 日（木）・27 日（金） 可児市文化創造センター・小劇場	スピーカー・パネリスト／セーラ・ジー、ゾイ・アームフィールド、衛紀生、福島明夫、伊藤達矢、森合音、落合千華、栗田康弘	目標値	130
				実績値	165

28	アーラ・シアターカレッジ	7 月～9 月 可児市文化創造センター・レセプションホール	講師／登龍亭獅鉄、田口由花、佐藤裕美子	目標値	120
				実績値	42
29	みんなが演奏者！一五一会ライブ！	5 月 18 日(水)～20 日(金) 西可児中、広陵中	講師／堀部勝彦、アシスタント／竹中千晶	目標値	240
				実績値	170
30	アーラみんなのピアノプロジェクト	月・木・金曜日のうち指定日 可児市文化創造センター・演劇練習室ほか	講師／有志で集まった地元ピアノ講師および音大生 10 名	目標値	20
				実績値	27
31	就学前教育のための非認知能力開発ワークショップ（ヘックマン・プロジェクト）	5/31(火),7/8(金),11/4(金),1/13(金) 可児市文化創造センター・美術ロフト	講師／絹川友梨、さとうりつこ、清水洋幸、地元アシスタント、記録スタッフ	目標値	60
				実績値	74
32	国際共同創作サマースクール（仮題）		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	8
				実績値	－※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

（3）令和３年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	ala Collection シリーズ vol.12『紙屋悦子の青春』可児・東京公演	10/1（金）～4（月） 10/20（水）～/28（木） 可児市文化創造センター/吉祥寺シアター	作／松田正隆、演出／藤井ごう、出演／平体まひろ、枝元萌、藤原章寛、長谷川敦央、岸槌隆至	目標値 実績値	1,620 1,176※
2	君といた夏～スタンドバイミー可児～	3 月 5 日（土） 可児市文化創造センター・主劇場	作・作詞・ナレーション／瀬戸口郁、演出／黒田百合、音楽／上田亨 撮影・編集／矢島幹也 出演／市民 51 名	目標値 実績値	1,200 160※
3	新日本フィルハーモニー交響楽団　サマーコンサート 2021	8 月 21 日（土） 可児市文化創造センター・小劇場	指揮／井上道義　ヴァイオリン／辻彩奈　管弦楽／新日本フィルハーモニー交響楽団	目標値 実績値	750 561※
4	文学座「牡丹燈籠」	12 月 10 日（金）～11 日（土） 可児市文化創造センター・小劇場	作／三遊亭円朝、脚本／大西信行 演出／鵜山 仁、出演／早坂直家、石川武、大原康裕、沢田冬樹、相川春樹、越塚学、富沢亜古、他	目標値 実績値	330 269
5	シリーズ恋文 vol.11	1 月 15 日（土）～16 日（日） 可児市文化創造センター・小劇場	構成・演出／瀬戸山美咲 出演／田中要次、高橋由美子 音楽（ピアノ）／黒木由香	目標値 実績値	200 250※
6	多文化共生プロジェクト 2021	8 月 1 日（日） 可児市文化創造センター・演劇ロフト	脚本・演出／鹿目由紀 出演／８名　声のみの出演２７名 アドバイザー／住吉エリオ、村上ヴァネッサ、山田久子	目標値 実績値	100 92
7	森山威男ジャズナイト 2021	2 月 5 日（土） 可児市文化創造センター・主劇場	出演／森山威男、渡辺ファイアー（as）、川嶋哲郎（ts）、田中信正（p）、田中邦和（bs）、佐藤芳明（acc）、類家心平（tp）、水谷浩章（b）、他	目標値 実績値	800 276※
8	ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団　ニューイヤーコンサート 2022		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値 実績値	800 －※
9	新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによるオープン・シアター・コンサート		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値 実績値	720 －※
10	文学座とつくるファミリー舞台		緊急事態宣言発令に伴う閉館により、事業を中止。（2021 年 8 月 7 日に初回のオーディションのみ行った。）	目標値 実績値	70 －※
11	アーラ紙芝居一座　市内巡回公演	11 月 27 日（土） 兼山児童館	演目／『おおきなかぶ』『ももたろう』 演出／森さゆり（文学座所属・演出家）、出演／アーラ紙芝居一座	目標値 実績値	50 32※
12	平田オリザの「対話を考える」ワークショップ	7 月 29 日（木） 可児市文化創造センター・レセプションホール	講師／平田オリザ 参加者／市内に勤務する小・中学校教員 28 名	目標値 実績値	20 28
13	森山威男ドラム道場	4 月～3 月の毎週月曜 可児市文化創造センター・音楽ロフト他	講師／森山威男	目標値 実績値	276 149※

14	アーラ未来の演奏家プロジェクト		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止。	目標値	800
				実績値	－※
15	フロントスタッフ研修	7/4(日)、7/22(木・祝)、8/21(土) 可児市文化創造センター研修室、主劇場他	講師／星乃もと子	目標値	
				実績値	38
16	劇場に関わる人のためのアーツマーケティングゼミ「あーとま塾 2021」	2 月 24 日（木）・25 日（金） 可児市文化創造センター・美術ロフト	塾長／衛紀生、事例報告／村尾剛志・直井恵・栗田康弘、モデレーター／落合千華	目標値	90
				実績値	46※
17	シアターキャンプ（ALRA との演劇交流プログラム）		新型コロナウイルス感染症の影響により実施中止。	目標値	20
				実績値	－※
18	歌舞伎とおしゃべりの会	10 月～3 月 可児市文化創造センター・映像シアター他	講師／葛西聖司、松本幸四郎、高橋久則、中村橋吾、木ノ下裕一、中村歌昇	目標値	410
				実績値	407※
19	新日本フィルハーモニー交響楽団おでかけコンサート	11 月 8 日（月）～12 日（金）　全 10 回 小学校：4 校、中学校：1 校、福祉施設：1 か所	出演／弦楽四重奏：Vn.松崎千鶴、Vn.田村安紗美、Va.高橋正人、Vc.多田麗王 ﾋﾟｱﾉﾄﾘｵ：Vn.古日山倫世、Vc.サミュエル・エリクソン、Pf.髙橋ドレミ	目標値	500
				実績値	581※
20	文学座おでかけ朗読会	10 月 19 日（火）～22 日（金） 蘇南中、中部中 東可児中、広陵中	朗読作品／太宰治作『走れメロス』 出演／佐川正和（文学座所属） 対象／中学生生徒および教師	目標値	880
				実績値	780※
21	文学座キッズワークショップ		新型コロナウイルスの感染拡大により中止。	目標値	15
				実績値	－※
22	町が元気になる処方箋	7 月 29 日（木） 可児市文化創造センター・映像シアター	出演／平田オリザ、衛紀生、篭橋義朗	目標値	50
				実績値	57
23	みんなのディスコ	10 月 31 日（日） 可児市文化創造センター・演劇ロフト	MC／川名洋行、DJ／AKIRA、KZY、KYORO、参加／ボランティアスタッフ、可茂学園、愛の家グループホーム可児広見	目標値	100
				実績値	37※
24	ココロとカラダワークショップ	前期 4 月～7 月の水曜、後期 10 月～12 月の水曜 可児市文化創造センター・レセプションホール他	講師／新井英夫（ﾀﾞﾝｽｱｰﾃｨｽﾄ）、Ten seeds（劇・遊び・表現活動）、アシスタント／板坂記代子、松岡恭子	目標値	150
				実績値	485※
25	世界劇場会議　国際フォーラム 2022 in 可児		新型コロナウイルス感染症の影響により実施中止。	目標値	150
				実績値	－※
26	英国人講師による演劇ワークショップ		新型コロナウイルス感染症の影響により実施中止。	目標値	240
				実績値	－※
27	子どもの居場所支援事業子ども食堂おでかけ演劇ワークショップ		新型コロナウイルス感染拡大により事業中止。	目標値	40
				実績値	－※

28	アーラみんなのピアノプロジェクト	月・木・金曜日のうち指定日　30 分間／1 人 1 回 可児市文化創造センター・演劇練習室他	講師／有志で集まった地元ピアノ講師および音大生 9 名、参加者／ピアノ教室に通っていない幼稚園年長から中学 3 年生　27 名	目標値	
				実績値	27※
29	就学前教育のための非認知能力開発ワークショップ（ヘックマン・プロジェクト）	8/20、11/5、12/3、1/13 可児市文化創造センター・美術ロフト他	講師／ 石丸有里子、絹川友梨　アシスタント／知念ユニコ、さとうりつこ、清水洋幸 対象／ハンドス･オブ･ガッド保育園の年長クラス（5 歳）の子どもたち 26 人	目標値	60
				実績値	104※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

（4）令和２年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	君といた夏～スタンドバイミー可児～		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	1,900
				実績値	― ※
2	文学座『昭和虞美人草』※	3 月 27 日～29 日※ 可児市文化創造センター小劇場	作／マキノノゾミ　演出／西川信廣 出演／早坂直家・植田真介・斉藤祐一・細貝光司・上川路啓志・富沢亜古・伊藤安那・鹿野真央・高柳絢子・平体まひろ	目標値	540
				実績値	294 ※
3	多文化共生プロジェクト2020	11 月 29 日※ 可児市文化創造センター美術ロフト※	脚本・演出／鹿目由紀、出演／外国にルーツを持つ方、地域に暮らす方（日本人含む）53 名、アドバイザー／住吉エリオ・村上バニー・山田久子　※	目標値	80
				実績値	53
4	森山威男×田中信正 DUO LIVE	12 月 12 日※ 可児市文化創造センター演劇ロフト※	出演／森山威男　田中信正 特別出演／伊藤在人（ドラム道場生） ※	目標値	300
				実績値	100 ※
5	新日本フィルハーモニー交響楽団　リニューアル記念演奏会	2 月 7 日 可児市文化創造センター主劇場	管弦楽／新日本フィルハーモニー交響楽団、指揮／阪哲朗、ソリスト／重松希巳江（Cl.）・河村幹子（Fg.） ※	目標値	800
				実績値	328 ※
6	文学座俳優による子ども向け舞台（仮称）		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	210
				実績値	― ※
7	平田オリザの「対話を考える」ワークショップ		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	20
				実績値	― ※
8	森山威男ドラム道場	10 月～3 月の毎週月曜 可児市文化創造センター音楽ロフトほか	講師／森山威男	目標値	192
				実績値	184※
9	アーラ未来の演奏家プロジェクト		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	800
				実績値	― ※
10	劇場フロントスタッフ研修	1 月 16 日・30 日※ 可児市文化創造センター研修室、主劇場	講師／星野もと子	目標値	50
				実績値	29 ※
11	劇場に関わる人のためのアーツマーケティング・ゼミ「あーとま塾 2020」	2 月 26 日・27 日※ 可児市文化創造センターレセプションホール※	塾長／衛紀生 ゲスト講師／八木匡・落合千華 ﾛｼﾞｯｸﾓﾃﾞﾙﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ／今尾江美子 ※	目標値	60
				実績値	13 ※
12	歌舞伎とおしゃべりの会	10/18・11/28・12/20・2/14※ 可児市文化創造センター美術ロフトほか※	講師／葛西聖司・木ノ下裕一 ゲスト／市川猿弥・片岡千之助 ※	目標値	410
				実績値	240 ※
13	新日本フィルハーモニー交響楽団おでかけコンサート		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	400
				実績値	― ※

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
14	文学座おでかけ朗読会		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	1,000
				実績値	― ※
15	文学座おでかけリーディング＋演劇ワークショップ		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	1,000
				実績値	― ※
16	町が元気になる処方箋		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	50
				実績値	― ※
17	みんなのディスコ		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	200
				実績値	― ※
18	ココロとカラダワークショップ	5 月～12 月の月 1 回※ オンライン開催※	講師／新井英夫（ダンスアーティスト）・Ten seeds（劇・あそび・表現活動） アシスタント／板坂記代子・松岡恭子	目標値	1,200
				実績値	88 ※
19	世界劇場会議国際フォーラム 2021 in 可児		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	130
				実績値	― ※
20	英国講師による学校ワークショップ		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	300
				実績値	― ※
21	親子で楽しむワークショップ（ひとり親家庭対象）		新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した。	目標値	40 (20×2 回)
				実績値	― ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

（５）平成３１年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	日英国際交流事業 『To See You, At Last プロジェクト』	8 月 12 日(月) 可児市文化創造センター演劇ロフト	演目：『To See You, At Last』（日英合作） 参加・出演：日本人 6 名、英国人 8 名 演出：アレックス・フェリス、藤井ごう	目標値 実績値	108 65
2	新日本フィルハーモニー交響楽団　サマー・コンサート 2019	8 月 24 日(土) 可児市文化創造センター主劇場	指揮：井上道義／ヴァイオリン：辻彩奈 演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団 プログラム：ベートーヴェン交響曲第 6 番ヘ長調「田園」op.68、他	目標値 実績値	750 842
3	文学座公演 『ガラスの動物園』	7 月 24 日(水)、25 日(木) 可児市文化創造センター小劇場	作：T.ウィリアムズ　翻訳：小田島恒志 演出：高橋正徳(文学座所属) 出演：塩田朋子、亀田佳明、永宝千晶、池田倫太朗、ほか	目標値 実績値	360 456
4	シリーズ恋文 vol.10	11 月 2 日(土)、3 日(日) 可児市文化創造センター小劇場	演目：『恋文コンテスト』にて全国から集められた恋文 出演：辰巳琢郎、木の実ナナ 音楽・ピアノ演奏：黒木由香 構成・演出：鈴木聡（劇団らっぱ屋主宰）	目標値 実績値	460 355
5	多文化共生プロジェクト 2019『にぎやかなお葬式』	9 月 22 日(日) 可児市文化創造センター演劇ロフト	演目：『にぎやかなお葬式』 作・演出：鹿目由紀 出演：24 人（ブラジル 6 人、フィリピン 3 人、ペルー1 人、日本 14 人） サポーター：4 人（ブラジル 1 人、日本 3 人）	目標値 実績値	110 154
6	森山威男ジャズナイト 2019	9 月 21 日(土) 可児市文化創造センター主劇場	出演者：森山威男(ds)　渡辺ファイアー(as)　川嶋哲郎(ts) 佐藤芳明(acc) 田中信正(p) 水谷浩章(b) 相川瞳（per） 曲目：「Sunrise」他	目標値 実績値	700 638
7	新日本フィルハーモニー交響楽団　ニューイヤー・コンサート 2020	1 月 5 日(日) 可児市文化創造センター主劇場	指揮：広上淳一 演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団 司会：田添菜穂子（フリーアナウンサー） プログラム：「ロンビ」／「女王ルイーズのワルツ」他	目標値 実績値	830 812
8	新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによるオープン・シアター・コンサート	6 月 13 日(木) 可児市文化創造センター主劇場	演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団 プログラム：モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」他	目標値 実績値	720 609
9	文学座俳優による子ども向け舞台『さるかに合戦』	8 月 31 日(土)、9 月 1 日(日) 可児市文化創造センター演劇練習室	出演：文学座(高柳絢子、相川春樹、大野香織)、市民キャスト 16 名 台本：さいとうゆういち	目標値 実績値	130 182
10	アーラ紙芝居一座公演	5 月 19 日(日) 可児市文化創造センター演劇練習室	演目：『いっすんぼし』『おむすびころりん』 演出：高橋正徳(文学座所属・演出家) 出演：公募による市民 13 名 サポーター：5 名	目標値 実績値	70 186
11	平田オリザの「対話を考える」ワークショップ	11 月 16 日(土) 可児市文化創造センターレセプションホール	講師：平田オリザ 参加者：市内の高齢者支援の現場に従事する関係者 12 名	目標値 実績値	20 12
12	森山威男ドラム道場	毎週月曜 可児市文化創造センター音楽ロフトほか	講師：森山威男	目標値 実績値	288 286
13	アーラ未来の演奏家プロジェクト	6 月 26 日(水)~30 日(日) 可児市文化創造センター小学校 2 校	演奏：森浩司(Pf.)、長谷川彰子(Vc.) コーディネーター：佐野秀典 プログラム：プーランク／チェロ・ソナタ FP143 他	目標値 実績値	900 1,567

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
14	劇場フロントスタッフ研修	7/28(日)、8/25(日)、10/14(月・祝) 可児市文化創造センター研修室、主劇場他	講師：星乃もと子	目標値 実績値	100 57
15	劇場に関わる人のためのアーツマーケティング・ゼミ「あーとま塾 2019」	Step① 5/30(木)・31(金) Step ②　10/16(水)・17(木) Step③ 2/1(土)・2(日) 可児市文化創造センター美術ロフト他	テーマ：「文化政策」、「社会包摂」、「マーケティング」 講師：八木 匡、笹路 健、早川悟司、野田大順、多田周平、幸地正樹、他	目標値 実績値	40 108
16	シアターキャンプ ～ALRA（英国）との演劇交流プログラム	10 月 8 日(火)~14 日(月) 可児市文化創造センター演劇ロフト、市内小学校	内容：英国式身体訓練法、ファシリテーション法、市内小学校へのアウトリーチ 講師：クリス・ヒル、英国 ALRA 演出修士コース学生 3 名、随行通訳 1 名 参加：日本人俳優・演出経験者 7 名 市内からのオブザーブ参加者 2 名	目標値 実績値	17 14
17	歌舞伎とおしゃべりの会	2019 年 5 月~2020 年 2 月 可児市文化創造センター映像シアター他	講師：中村橋吾、木ノ下裕一、中村錦之助、葛西聖司、七代目 笑福亭松喬、山崎徹、豊竹靖太夫、鶴澤清志郎	目標値 実績値	360 505
18	新日本フィルハーモニー交響楽団おでかけコンサート	6 月 12 日(水)､14 日(金)、19 日(水)~21 日(金) 市内高齢者施設、病院、小学校　計 10 コマ	出演：新日本フィルハーモニー交響楽団	目標値 実績値	400 503
19	文学座おでかけ朗読会	7 月 2 日(火)~5 日(金) 西可児中、広陵中、蘇南中、中部中	出演：山崎美貴(文学座)	目標値 実績値	1,000 794
20	町が元気になる処方箋	11 月 16 日(土) 可児市文化創造センター映像シアター	テーマ:「幸福とは？経済学の視点から考える」 出演：平田オリザ、衛紀生、八木匡	目標値 実績値	50 40
21	みんなのディスコ	9 月 28 日(土) 可児市文化創造センター演劇ロフトほか	DJ：松井 陽介、MC：川名 洋行 ACT：多治見西高等学校ダンス部、川名洋行、Team 可茂学園、ONES、JOY☆UP、みなぶた from 福井	目標値 実績値	100 123
22	ココロとカラダワークショップ	前期 4 月～7 月の水曜、後期 10 月～12 月の水曜 可児市文化創造センターレセプションホール	講師：新井英夫、Ten seeds アシスタント： 板坂記代子、松岡恭子、亀井千恵	目標値 実績値	1,120 855
23	世界劇場会議国際フォーラム 2020 in 可児	1 月 30 日(木)、31 日(金) 可児市文化創造センター小劇場	テーマ：”文化芸術の社会包摂” 登壇者：セーラ・ジー、カス・ラッセル、ジョナサン・ハーパー、中村美亜、栗林知絵子、藤井昌彦、前田有作、衛紀生、細井昭男、他	目標値 実績値	150 141
24	英国人講師による学校ワークショップ	1 月 13 日(月) -17 日(金) 可児市文化創造センター美術ロフト、市内小中学校	講師：Gemma Woffinden(リーズ・プレイハウスより派遣) アシスタント：山田久子、原口知夏、清水万里子、かにっこ英語サポーター 通訳：石井麗子(文学座)	目標値 実績値	300 290
25	親子で楽しむワークショップ（ひとり親家庭対象）	1 月 26 日(日) 可児市子育て健康プラザ健康スタジオ	講師：植田真介(文学座) アシスタント：浅海彩子、佐藤麻衣子(文学座)	目標値 実績値	20 19

（６）平成３０年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	オーケストラで踊ろう！	2019 年 3 月 2 日、3 日 可児市文化創造センター・主劇場	演目：オーケストラで踊ろう！出演：公募による市民ダンサー49 名演奏：可児交響楽団（市民オーケストラ）振付、演出：近藤良平（ダンサー、コンドルズ主宰）	目標値	1,073
				実績値	市民ダンサー49、市民オーケストラ 65、入場者数 833
2	新日本フィルハーモニー交響楽団 サマー・コンサート 2018	2018 年 7 月 29 日 可児市文化創造センター・主劇場	プログラム：ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第 2 番ハ短調 Op.18 指揮：上岡敏之（新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督）ピアノ：オルガ・シェプス管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団	目標値	750
				実績値	771
3	文学座公演 「かのような私―或いは斎藤平の一生―」	2018 年 9 月 27 日、28 日 可児市文化創造センター・小劇場	作：古川健（劇作家・俳優、劇団チョコレートケーキ所属）演出：高橋正徳（演出家、劇団文学座所属）出演：関輝雄、川辺邦弘、亀田佳明ほか	目標値	480
				実績値	446
4	シリーズ恋文 vol. 9	2018 年 11 月 24 日、25 日 可児市文化創造センター・小劇場	演目：トランプが全部揃ったら、傍らの妻へ、ほか出演者：石丸謙二郎、市毛良枝音楽・ピアノ演奏：黒木由香 演出：詩森ろば（seriarunumber 主宰）	目標値	500
				実績値	394
5	多文化共生プロジェクト 2018	2019 年 2 月 11 日 可児市文化創造センター・演劇練習室	演出：鹿目由紀（劇団あおきりみかん）出演：14 人（ブラジル 7 人、ペルー1 人、日本 5 人）サポーター：4 人（ブラジル 1 人、日本 3 人）	目標値	80
				実績値	90
6	森山威男ジャズナイト 2018	2018 年 9 月 15 日 可児市文化創造センター・主劇場	曲目：Birth of Life、East Plants ほか 出演：森山威男(ds)、渡辺ファイアー(as)、川嶋哲郎(ts)、佐藤芳明(acc)、田中信正(p)、水谷浩章(b)、相川瞳(per)、類家心平(tp)	目標値	750
				実績値	680
7	ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団 ニューイヤー・コンサート 2019	2019 年 1 月 7 日 可児市文化創造センター・主劇場	演目：オペレッタ「美しきガラテイア」ほかソリスト：アナ・マリア・ラビン（ソプラノ）、トーマス・ブロンデル（テノール）、舞踏：アンサンブル SVO ウイーン・メンバー指揮：アレクサンダー・ジョエル、管弦楽：ウイーン・フォルクスオーパー交響楽団	目標値	800
				実績値	794
8	新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによるオープン・シアター・コンサート	2018 年 6 月 14 日 可児市文化創造センター・主劇場	プログラム：モーツァルト/アイネ・クライネ・ナハトムジークほかスタッフ：西江辰郎、田村直貴（ヴァイオリン）、原孝明（ヴィオラ）、飯島哲蔵（チェロ）ほか	目標値	800
				実績値	710
9	文学座俳優による子ども向け舞台「三匹のこぶた」	2018 年 8 月 25 日、26 日 可児市文化創造センター・演劇練習室	演出・音楽・出演：鈴木亜希子、吉野実紗、相川春樹（俳優、文学座）美術・演出協力：乗峯雅寛（舞台美術家、文学座）	目標値	120
				実績値	入場者数 185 参加者数 22

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
10	平田オリザの「対話を考える」ワークショップ	2018 年 8 月 3 日 可児市文化創造センター・レセプションホール	カリキュラム：「(生徒の）参加を促す」～声を出す・動く・集まる講師：平田オリザ（劇作家、演出家、青年団主宰）	目標値 実績値	30 13
11	森山威男ドラム道場	毎週月曜日 可児市文化創造センター・音楽ロフトほか	講師：森山威男（ジャズドラマー）	目標値 実績値	300 265
12	アーラ未来の演奏家プロジェクト	2018 年 6 月 21 日、22 日、24 日 可児市文化創造センター、市内小学校 2 校	プログラム：J.S.バッハ/無伴奏ﾌﾙｰﾄのためのパルティータイ短調 BWV1013 ほか出演者：渡久地圭（ﾌﾙｰﾄ）、大橋春奈（ピアノ）、佐野秀典（作曲・編曲家）	目標値 実績値	900 入場者 118 参加者 913
13	劇場フロントスタッフ研修	2018 年 7 月 16 日、8 月 4 日、10 月 28 日 可児市文化創造センター・音楽ロフト、主劇場	内容：座学、実地研修 講師：星乃もと子（Theatre Management Plan Co.,Ltd.代表）	目標値 実績値	100 95
14	劇場に関わる人のためのアーツマーケティング・ゼミ「あーとま塾 2018」	2018 年 5 月 24 日、25 日、10 月 10 日、11 日、2019 年 1 月 30 日、31 日 可児市文化創造センター・音楽ロフトほか	テーマ：文化政策、社会包摂、マーケティングゲスト：大江耕太郎（文化庁文化活動振興室長）、幸地正樹（ケイスリー㈱代表取締役）、湯浅誠（法政大学教授）、セーラ・ジー（インディゴ社業務執行役員）、竹田亨（日本航空㈱地域活性化推進部長）	目標値 実績値	30 114
15	歌舞伎とおしゃべりの会	2018 年 5 月～12 月 可児市文化創造センター・映像シアター	講師：中村橋吾（歌舞伎役者）、吉田豊（岐阜県芸術文化会議名誉顧問）、葛西聖司（古典芸能解説者）、中村萬太郎（歌舞伎役者）、川瀬露秋（地歌箏曲胡弓演奏家）、鶴澤都賀寿（義太夫三味線）	目標値 実績値	400 375
16	新日本フィルハーモニー交響楽団おでかけコンサート	2018 年 6 月 12 日、13 日、 15 日、18 日、19 日 市内小中学校 4 校	プログラム：ボロディン/弦楽四重奏曲第 2 番ニ長調より第 1 楽章、ハチャトゥリアンほかスタッフ：西江辰郎、田村直貴（ヴァイオリン）、原孝明（ヴィオラ）、飯島哲蔵（チェロ）、柴原誠・斎藤祥子・牧野美沙（ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ）	目標値 実績値	400 357
17	文学座おでかけ朗読会「父母への手紙」	2018 年 7 月 3 日～6 日 市内小中学校 3 校	プログラム：「ただいま、おかえり」「愛すべき二人の母上様」「細い小さな大黒柱」「娘を返してくれ」出演：山崎美貴（俳優、文学座）	目標値 実績値	1,000 483
18	町が元気になる処方箋	2018 年 8 月 3 日 可児市文化創造センター・映像シアター	テーマ：「生きづらさ、生きにくさ」を考える新しい広場としての劇場の可能性ゲスト：平田オリザ（劇作家・演出家）、森川すいめい（精神科医）	目標値 実績値	50 56
19	みんなのディスコ	2018 年 6 月 23 日 可児市文化創造センター・演劇ロフト	スタッフ：N.O.D.A.summer(DJ)、蛯名佳(DJ)、ryosei(DJ)	目標値 実績値	150 95

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
20	ココロとカラダワークショップ	2018 年 4 月～12 月 可児市文化創造センター・レセプションホール	内容：親子 de 仲間づくりワークショップ（乳幼児の親子対象）、ココロとカラダの健康ひろば（高齢者対象） 講師：新井英夫（ﾀﾞﾝｽｱｰﾃｨｽﾄ）、Ten seeds（劇・遊び・表現活動）	目標値	1,236
				実績値	1,028
21	世界劇場会議国際フォーラム 2019 in 可児	2019 年 2 月 7 日、8 日 可児市文化創造センター・小劇場	内容：劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何を求めているかゲスト：湯浅誠（法政大学教授）、熊井一記（KAAT 神奈川芸術劇場 制作課係長）、ルース・ブロック（ｼｬｲｸｽﾋﾟｱ・ｽｸｰﾙｽﾞ財団代表理事）	目標値	120
				実績値	82
22	英国人講師による学校ワークショップ	2019 年 1 月 13 日～18 日 可児市子育て健康プラザマーノほか	講師：Amy Lancelot（リーズ・プレイハウス）アシスタント：山田久子、清水万里子、かにっこ英語サポーター、ALT	目標値	300
				実績値	268
23	親子で楽しむワークショップ	2018 年 11 月 18 日 可児市子育て健康プラザマーノ	講師：西川信廣（演出家、文学座）アシスタント：浅海彩子、佐藤麻衣子（俳優、文学座）	目標値	20
				実績値	16
24	バリアフリー対応			目標値	
				実績値	
25	多言語対応			目標値	
				実績値	

２．自己評価

（１）妥当性（平成３０年～令和４年度　５か年分）

自己評価
事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が実施できたか。
可児市文化創造センターala（アーラ）は、《「芸術の殿堂」ではなく、人々の思い出の詰まった「人間の家」へ》をミッションに掲げ、平成 20 年度から 15 年間に渡って『**ala まち元気プロジェクト（社会包摂型コミュニティ・プログラムの総称）**』を継続的に推進してきた。本プロジェクトにおいて、アーラは現在の社会状況を理解し、それに応じた取り組みをすることで、人々の「経験価値」と、そこから派生するかけがえのない「思い出」と、さらに新しい価値による行動の「変化」とその「生き方」を提供する社会機関としての役割を果たすことを目指しており、国の文化芸術振興費補助金「劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業」に採択された平成 30 年度から令和 4 年度の 5 か年については、以下に示す「**3 本の矢**」をその戦略目標として、本事業の支援対象となっている**全 16 館の中でも最小クラスの組織体制で、最大限の工夫を凝らしながら効率的に事業を推進してきている。** 最終年度となる 5 か年の事業計画の実施状況については、長期化する新型コロナウイルスの影響により、平成 31 年度および令和 2・3 年度の事業において、**制作方法および上演形式の変更、実施規模の縮小、事業の中止および延期等の措置**をやむを得ず講じてきた。それはまさに**有事におけるセーフティネットとして果たすべき役割を再考すること**を、地域社会から強く求められてきた「試練」の 4 か年であったが、最終年度の令和 4 年度では、令和 3 年度などと比較してコロナ禍でもオンラインや人数制限などの工夫により徐々に実施できる事業が増えていったことや、社会全体のコロナ対策緩和とも相まって、一部中止はあったものの概ね予定通り実施することが可能となった。 **第 1 の矢：感動と希望を生み出す＜最高水準の舞台芸術＞の提供** **ala Collection シリーズ**、文学座と新日本フィルハーモニー交響楽団との**地域拠点契約公演**、**シリーズ恋文**、**森山威男ジャズナイト**は、継続的に実施し、アーラのレパートリーとしてさらに定着した。特にアーラコレクションシリーズでは、今回初めて新作書下ろしに取り組み、新作ならではの現代社会の課題に切り込んだ、より市民の共感性を刺激する芸術性の高い作品作りを実施することが出来た。令和 4 年度では、**新日本フィルハーモニー交響楽団サマー・コンサート**がコロナの影響により中止となった。 **第 2 の矢：人と人とを繋げていく＜市民総活躍社会＞の実現** **市民活動の発表の場の提供**については、新型コロナウイルスの影響により可児市から利用停止措置等の要請があり、平成 31 年度から令和 3 年度の 4 年間において施設利用件数が**約 30%まで減少したが、令和 4 年度は 50%近くまで回復した。** **地域拠点契約の文学座・新日本フィルハーモニー交響楽団による学校アウトリーチや市民参加企画、アーラ未来の演奏家プロジェクト、森山ドラム道場において**、令和 3 年度までは感染防止対策や学校施設の空気環境への配慮が極めて難しく、多くのプログラムが中止となったが、令和 4 年度では、これまで継続してきたプログラムはもちろん、**「おでかけ落語会」や「おでかけ AG ライブ」など学校プログラムの新規事業による子ども達への多様な体験プログラムの充実を図り、学校との連携を強める結果となった。** **大型市民参加企画**は、第二の矢における事業の柱としてこれまで毎年実施してきたが、平成 30 年度以降、新型コロナウイルスの影響により、実施を見送ってきた。しかし、令和 4 年度は満を持して**実に 3 年ぶりに大型市民ミュージカル「君といた夏」公演を成功させた。**市民参加事業の集大成と位置付けている本事業では 3 年もの間出演を待ち望んでいた総勢 94 人の市民出演者が誰一人欠けることなく最後まで走り切り、**市民出演者、サポ**

ートスタッフ、演出、振付、歌唱指導などの講師陣、そしてアーラ職員との強い繋がりを築き上げる結果となった。アーラ紙芝居一座公演はコロナの影響でアウトリーチ先が制限されてきたが、令和 4 年度はそれも徐々に回復し、＜紙芝居カフェ＞という**お茶を飲みながらカジュアルに紙芝居を楽しむ空間を提供した。**令和 2・3 年度と同様に令和 4 年度も**フロントスタッフ研修**は、ウィズコロナ対策の検討を盛り込んで、講師に OJT 形式での実践的なアドバイスを依頼した。**平田オリザの「対話を考えるワークショップ」**は令和 3 年度ではコロナ対策もあり、レクチャー形式のみとして規模縮小して実施したが、令和 4 年度はワークショップ形式としてより実践的な体験を先生方に提供することが出来た。

第 3 の矢：生きづらさを解消する文化芸術による＜セーフティネット＞の構築

多文化共生プロジェクトは、映像作品（クレイアニメーション）およびアフレコのオンライン収録、オンラインインタビューなどの工夫を施して、**令和 2 年、3 年度はコロナ禍でも実施を継続した。**そして、令和 4 年度においては対面での稽古により、新作「ボーダー」を参加者と共に発表した。**ごみ問題や言葉、障がい、親子など身近な境界から国境、戦争など大きな境界を含めて、様々な違いを理解し受け入れる大切さをメッセージに込めて提示することが出来た。**

オープンシアター・コンサートおよび**みんなのディスコ**は、特に令和 3 年度は福祉施設などからの移動・参加が非常に厳しく制限されたため、関係者と協議の末に中止、実施した場合でも参加者数が大きく減少している。**令和 4 年度の「みんなのディスコ」ではオンライン参加とフィジカル参加の 2 つの方式を組み合わせたハイブリッドイベントを実現した。**

ココロとカラダワークショップは、セーフティネットとしての位置づけから、オンラインの活用や屋外でのアクティビティを取り入れ、コロナ禍でも、さまざまなカタチで可能な限り実施を継続した。**令和 4 年度は対面でのワークに全面的に切り替えて実施。参加者や講師らが直接触れ合う温かさや楽しさを共有する場となった。**

組織力と制作能力の強化と同時に全国に優れた人材を育成

劇場に関わる人のアーツマーケティング・ゼミ『あーとま塾』は、令和 2・3 年度ともに、新型コロナウイルスの影響によって事業計画を変更し、年 1 回の特別編として実施した。令和 3 年度はオンライン視聴参加を導入し、現地参加が叶わない関係者向けのアクセシビリティの改善も行った。令和 4 年度は、3 年ぶりに年 3 回の通常編にて開催。オンラインと現地参加のハイブリッド方式で実施したことで、より多くの受講生らとアーツマーケティングにおいて未来志向の実践的なノウハウを共有する場として役立てることが出来た。

令和 2・3 年度の**世界劇場会議国際フォーラム、シアターキャンプ**は、海外からの入国制限に伴い、やむを得ず招聘を断念した。令和 4 年度は入国制限も緩和され、**世界劇場会議国際フォーラム**において海外からもパネリストを招聘し、実に 3 年ぶりの開催を実現した。コロナ禍で劇場運営が世界的に打撃を受ける中、それでも文化芸術の発展に邁進する様々な活動報告は多くの劇場人を勇気づけ、コロナ禍だからこそ人とのつながりの大切さを共有しながら劇場を拠点につながりを涵養していくための人材養成に大きく寄与することができた。

自己評価
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

この 5 か年の総合支援事業の助成における事業計画とその取り組みによって、中・長期的に獲得することができた持続的な成果としての意義から、新型コロナウイルスの影響により、緊急的な措置として行った施策によって、新たに発見された、今後定着を目指すべき文化芸術によるセーフティネットとしての意義まで含めて、本事業の助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められたと考えられる点について以下に列挙する。

第 1 の矢：感動と希望を生み出す＜最高水準の舞台芸術＞の提供

ala Collection シリーズ、文学座と新日本フィルハーモニー交響楽団との**地域拠点契約公演**、**シリーズ恋文**、**森山威男ジャズナイト**、**ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団**は、アーラのレパートリーとしてさらに定着し、その安定したクオリティとこれまで培ってきた顧客や参加者との関係性を維持・回復するための「お元気ですかハガキ」や「100％キャンセルサービス」をはじめとする市民に寄り添うマーケティングの実践によって、「アンケート評価」の 5 年間平均で 87.9%という高い顧客満足度を維持している。

平成 31 年度に実施した**日英国際交流事業『To See You, At Last プロジェクト』**では、理念を共有し、グローカル提携（人事交流および国際共同制作に関する提携）を締結する英国のリーズ・プレイハウス（LP）との国際共同制作によって、両国の青少年が演劇を通じて出会い、言葉を超えたコミュニケーションの可能性を共に発見する意欲的なプロジェクトとなり、これまでの国際共同制作にない切り口の新しい挑戦によって、アーラの掲げるミッション・ビジョンならではの社会包摂をベースとする国際ネットワークの構築・強化につながっている。**ala Collection シリーズ**では、これまで過去の優れた戯曲に焦点を当てたリメイクを基本としていたが、令和 4 年度で遂に新作書下ろしに挑戦し、各地で好評を得たことで本シリーズの新たな可能性を開花させた。

第 2 の矢：人と人とを繋げていく＜市民総活躍社会＞の実現

大型市民参加企画においてミュージカル『君といた夏』は、令和 2 ・3 年度ともに新型コロナウイルスの影響によって開催中止なり、令和 3 年度は代替企画として **THE MOVIE みんなと繋ぐ『君といた夏』2022** を制作し、参加希望者の有志が自ら撮影した挿入歌とダンスの映像、これまでの舞台公演映像と作者の瀬戸口郁（文学座）のナレーションを加えて YouTube で公開し、アーラとのつながりの維持・回復への思いを共有した。そして令和 4 年度には満を持しての開催を実現。総勢 94 人の出演者が、コロナ禍にもかかわらず、対面での稽古を約半年間かけて、生の舞台を作り上げた。その過程における多大な苦労と、その表裏一体にある喜びを公演当日は観客と共に爆発させた。終演後はその感動で観客や出演者など皆が涙し、忘れられない一日となった。

第 3 の矢：生きづらさを解消する文化芸術による＜セーフティネット＞の構築

多文化共生プロジェクトは、令和 2 年度に演劇作品の代替企画として映像作品（クレイアニメーション）およびアフレコのオンライン収録をおこなった**『Trabalho トラバーユ～ある、私の人生』**、令和 3 年度に**『こころの井戸』**を上演、多様な言語や文化的背景を持つこの地域の人々と共にドキュメンタリー演劇の手法を活かした作品を制作した。そして令和 4 年度は日本、世界、そして私たちの身近なあらゆるところに存在する境界線**『ボーダー』**をテーマに作品を創作。ドキュメンタリー演劇の手法により、多文化、障がい、性別、世代間など多様な思考や価値観を浮かび上がらせ、作り手にとってもその創作過程から様々な気付きを得ながら、参加者全員と共有し、リアリティーのある物語を生み出した。

みんなのディスコでは、様々な違いを豊かさに変換する場としてその思いに共感して集まった市民ボランティアが会場づくりなど、運営面をサポートしていくことで、市民が中心となって共感の輪を地域の隅々に伝播させながら、文化芸術による様々な居場所づくりの基盤づくりに寄与することが出来た。

（２）有効性（平成３０年～令和４年度　５か年分）

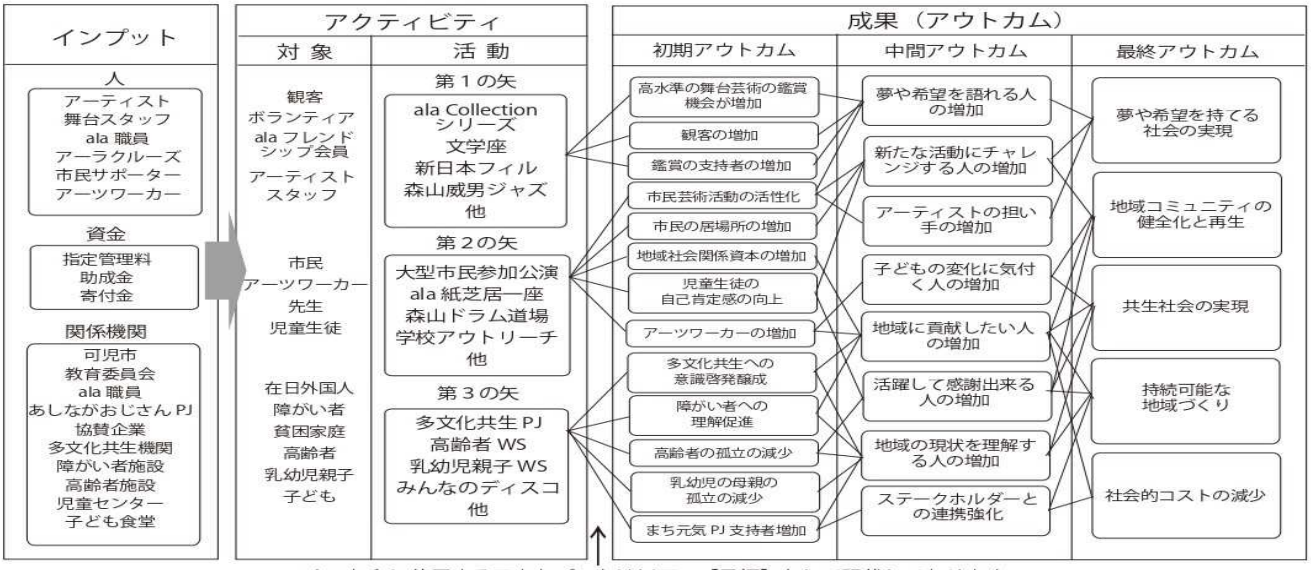
自己評価

目標を達成し、アウトカムが発現したか。

平成 30・31 年度は指標に掲げた数値目標の達成に向けて順調に推移し、令和 2・3 年度は新型コロナウイルスの影響によって実施事業数がそれぞれ全 21 事業中 9 事業と全 29 事業中 19 事業に留まっていたが、令和 4 年度は、全 32 事業中 29 事業に復調した。

下記の分析のとおり、目標の達成、アウトカム発現の可能性を高めるために、可能な限りの工夫を施しながら事業計画を推進してきているが、今後は、**従来のロジックモデルにアフターコロナにおけるさまざまな社会変容を加味した上で、アウトカム発現の可能性を高めるための更なる手立てを講じることが必要となってきている。**

まち元気プロジェクトロジックモデル



第１の矢：感動と希望を生み出す＜最高水準の舞台芸術＞の提供

目標：【多様なニーズへの対応】【幅広い層への鑑賞者拡大】【クオリティ・顧客満足度】

総合支援事業一覧_アウトカム及び目標・指標 平成30年～令和4年 集計

第1の矢・目標項目		目標指数	実績	H30年	H31年	R2年	R3年	R4年
【多様なニーズへの対応】ジャンルバランスの取れた公演の実施	多様なジャンルの公演実施	5年間で延べ250公演以上	314	58	73	17	32	134
	公演ジャンルのバランスが取れている※アーラ鑑賞モニターアンケートより	80%以上	90%	―	80%	コロナ禍の為中止	コロナ禍の為、計測不能	100%
【幅広い層への鑑賞者拡大】市民に寄り添うマーケティングによる鑑賞者開発	アーラフレンドシップ会員数　※2017年度会員数12,457人より加算	15,000人	17,414	13,471	14,301	14,444	15,585	17,414
	パッケージチケットの販売数	5年間で延べ4,000セット	3,899	1,024	1,193	―	689	993
	「あしながおじさんプロジェクト」参加者数	5年間で延べ1,000人	654	254	146	40	86	128
【クオリティ・顧客満足度】水準の高い舞台芸術による顧客満足度の向上	主催・共催（有料）の劇場鑑賞者アンケート評価	80%以上	87.9%	85.0%	83.2%	90.1%	91.0%	90.4%
	日本を代表する芸術団体との地域拠点契約の締結	2団体維持	2	2	2	2	2	2
	プロフェッショナルな自主制作公演の創造	5年間で延べ10本	12	3	3	0	3	3

分析：【多様なニーズへの対応】については、5 年間では 314 公演を実施し、目標を達成できた。**【幅広い層への鑑賞者拡大】**について、パッケージチケットの販売は令和 3 年度に例年比 30%以上落ち込んだものの（令和 2 年度は大規模改修のため販売せず）、令和 4 年度は 993 セットと例年水準に復調した。**【クオリティ・顧客満足度】**についても、5 年間平均で 87.9%という高い顧客満足度を維持していることからも、市民に寄り添うマーケティングの実践による**顧客との関係性維持・回復策が功を奏した**といえる。

第 2 の矢：人と人とを繋げていく＜市民総活躍社会＞の実現

目標：【市民活動・人材】【地域コミュニティ・仲間】【教育現場・友達】

第2の矢・目標項目		目標指数	実績	H30年	H31年	R2年	R3年	R4年
【市民活動・人材】 文化芸術活動が安定して継続していく好循環を実現する。 (A)貸館事業により市民による自主的な文化活動を応援する。(B)実演芸術科(講師)やコミュニティーアーツ・ワーカーを育成する。	(A)貸館事業「年間180回公演以上」受け入れ	年間180公演以上	113	186	167	12	78	122
	(A)貸館事業毎に担当をつける「制作サポートサービス」の100%実施	100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	実演芸術家(講師)やコミュニティアーツ・ワーカーの育成機会	5年間でのべ40事業以上	35	9	10	2	6	8
【地域コミュニティ・仲間】 一般市民公募の持続的なワークショップの主催・支援などにより、地域文化を後押しする。文化を基底にした多様なコミュニティ形成を行っていく。	コミュニティ形成事業数を目的とする事業を「5年間でのべ60事業以上」実施	60事業以上	52	13	13	3	12	11
	ワークショップ系事業の参加者によるアンケート評価「居場所づくり」「新しい仲間ができた」または「居場所になっている」が80%以上(2020年より)	80%以上	90.2%	91.8%	97.3%	コロナ禍の為ZOOM交流	90.4%	81.3%
【教育現場・友達】 学校の先生に演劇ワークショップの効果を体験・理解してもらい、児童生徒のワークショップの理解を深める。	学校の先生や生徒へのワークショップとして、「5年間でのべ25事業450回以上」実施する。	5年間でのべ25事業450回以上	4年間でのべ20事業231回	5事業89回	9事業75回	コロナ禍の為中止	3事業21回	3事業46回
	児童・生徒向けのアンケート評価「学級単位の関係づくりと一人一人の個性や多様性への理解」「新しい仲間ができた」または「居場所になっている」80%以上(2020年より)	80%以上	94.3%	―	―	コロナ禍の為中止	94.4%	94.2%
	先生向けのアンケート評価「クラスづくりへのワークショップ手法の応用」「今後の学級経営に活かしたいことがあった」90%以上	90%以上	99.1%	100%	100%	コロナ禍の為中止	96.4%	100%

分析：【市民活動・人材】については、新型コロナウイルスの影響により利用停止措置等が大きく響き、貸館が減少し、令和 4 年度は平成 30 年度比で約 6 割と以前厳しい状況にある。**【地域コミュニティ・仲間】**については、ココロとカラダワークショップをはじめとするセーフティネットとしてのコミュニティ形成事業をコロナ禍の中、可能な限り継続的に実施し、目標の 8 割以上実施できた。ワークショップ系事業のアンケート評価は 5 年間平均で 90.2%と非常に高い水準を維持できた。**【教育現場・友達】**については、国・県等の自粛要請や教育委員会および学校現場の事情から一律に受け入れ困難との判断が示されたことから、当初目標を大幅に下回った。分析結果からも明らかなように、新型コロナウイルスの影響によるニーズや対応の変化は、劇場・音楽堂等が地域社会の有事におけるセーフティネットとして果たすべき役割の再考を強く促すものであると捉えており、可児市および市の教育委員会（教育研究所）とは、今後想定される不登校児童の増加に関する対策について協力して取り組んでいく。

第 3 の矢：生きづらさを解消する文化芸術による＜セーフティネット＞の構築

目標：【多文化共生】【貧困対策】【高齢化社会】【母親の孤立化】【障がい者】

第3の矢・目標項目		目標指数	実績	H30年	H31年	R2年	R3年	R4年
【多文化共生】 外国人居住率7%という可児市において、誰もが安心して生活できる多文化共生社会の実現	「多文化共生プロジェクト」事業参加数	5年間で延べ550人以上	612	118	140	53	175	126
	多文化共生プロジェクトの鑑賞者アンケート評価「多文化理解」「多文化への理解が促進」80%以上（2020年より）	80%以上	89.3%	―	―	映像作品のため測定不能	87.0%	91.5%
【貧困対策】 貧困世帯やひとり親家庭など、様々な事情を抱える子どもや家庭に対し、文化芸術体験を等しく提供していく。	「私のあしながおじさんプロジェクト」 For Family 公演鑑賞者数	5年間で延べ800人以上	380	160	85	25	41	69
	「みんなのピアノプロジェクト」参加者数	5年間で延べ1,500人以上	1517	112	447	186	220	552
【高齢化社会】 文化施設として、高齢者の仲間づくりや生きがい発見の場としての役割を担う。	「ココロとカラダの健康ひろば」参加者数	5年間で延べ1,500人以上	1152	406	323	72	119	232
	「ココロとカラダの健康ひろば」参加者アンケート評価「健康」「心と身体が解放された」90%以上	90%以上	96.8%	93.8%	97.3%	コロナ禍の為ZOOM交流	100.0%	96.1%
	「ココロとカラダの健康ひろば」参加者アンケート評価「健康」「新しい仲間が出来た」90%以上	90%以上	93.9%	91.8%	97.3%	コロナ禍の為ZOOM交流	90.4%	96.15%
【母親の孤立化】 乳幼児を抱える母親の孤立化を防止と悩みなどを相談できる仲間づくり	「親子de仲間づくりワークショップ」事業の参加者数	5年間で延べ3,000人以上	2057	622	532	16	346	541
	「親子de仲間づくりワークショップ」参加者アンケート評価「悩み・育児ストレス」「育児ストレスの軽減になった」90%以上	90%以上	94.2%	100.0%	100.0%	コロナ禍の為ZOOM交流	76.9%	100%
	「親子で楽しむワークショップ」参加者数	5年間で延べ75人以上	35	16	19	中止	中止	廃止
【障がい者】 障がいの有無に関わらず、文化を楽しむことが出来る環境づくりを推進すると共に、障がい者への理解が深まる事業を実施する。	障がい者への理解を深める事業参加者数	5年間で15回、参加者は延べ6,000人以上	4年間で10回、3686人	3回 1618人	3回 1203人	中止	2回 539人	2回 326人
	障がい者への理解を深める事業の参加者・鑑賞者アンケート評価「障がい者への理解」「理解が深まった80%以上」（2020年より）	80%以上	72.0%	―	―	中止	100%	44%

分析：【多文化共生】については、コロナ禍を経て、多文化共生プロジェクトへの事業参加数が増加し、多文化への理解も 2 年平均で 89.3%が促進されたと回答していることから、共生社会の実現に寄与していると言える。**【貧困対策】**については、私のあしながおじさんプロジェクト For Family など「公演鑑賞」をベースとした対策が、感染症対策や自粛ムードから効果的に機能しなかった側面が見られた。みんなのピアノプロジェクト参加者がコロナ禍でありながらも目標の 1,500 人参加することができた。**【高齢化社会】**については、ココロとカラダワークショップの実施回数が減少したことに伴い、延べ参加人数も減少した。対面実施については既往症等健康上の問題、オンライン開催はリテラシーや通信環境の問題といった障壁が顕在化した一方、数値には現れない「見守り機能（DVD、手紙のやり取り）」も発揮しており、アンケート評価では非常に高い顧客満足度（5 年平均「心と体が解放された」96.8%、「新しい仲間ができた」93.9%）を維持している。**【母親の孤立化】**については、5 年平均で、「育児ストレスの軽減になった」が 94.2%と孤立化の解消に寄与できた。**【障がい者】**については、みんなのディスコにおいて、「障がい者への理解が深まった」が 2 年間で平均 72%と目標を達成できず、オンラインとリアルのハイブリッド開催の限界と、本事業においてリアル開催の価値が大きいことが浮き彫りになった。

（３）効率性（平成３０年～令和４年度　５か年分）

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに実施できたか。
平成 30・31 年度はほぼ当初の計画通りに順調に進んできたが、令和 2 年度は、1 月初旬まで施設の大規模改修だったことに加え、新型コロナウイルスの影響によって、対象となる全 21 事業のうち 12 事業が中止となり、9 事業が日程・会場・内容・方法等を変更しての実施となった。 令和 2 年度の大規模改修中に実施を予定していた**アーラ未来の演奏家プロジェクト**や新日本フィルハーモニー交響楽団・文学座との**地域拠点契約**によるアウトリーチプログラム、**ひとり親家庭向けのワークショップ**、**英国人講師による演劇ワークショップ**などは期間を延期することなどが難しく、やむを得ず開催を断念することになった。**多文化共生プロジェクト**及び**ココロとカラダワークショップ**はオンラインを活用するなどして開催した。 **多文化共生プロジェクト**での映像作品（クレイアニメーション）創作は、コロナ禍での妥協案としてのオンラインでの活動として始まったが、それぞれに不安を抱える時期の定期的なオンライン上での集まりによって、仲間の存在を確認し支え合えたことは、「つながり」の持つセーフティネットとしての価値を実感する上でも重要な経験であった。 10 月からの施設一部再開後は、通常時の客席数の 50%以下を定員とし、出演者やスタッフおよび参加者が PCR 検査を行うなど感染対策を行ったうえで実施した。 令和 3 年度も、引き続き新型コロナウイルスの影響によって、対象となる全 29 事業のうち 10 事業が中止となり、19 事業も日程・会場・内容・方法等を変更するなど工夫を施しながらの実施となった。 **アーラ未来の演奏家プロジェクト**や**子ども食堂おでかけ演劇ワークショップ**などは期間の延期も含めて検討したが、変異株の波によって開催を断念せざるを得なかった。**ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団**をはじめ**世界劇場会議国際フォーラム、シアターキャンプ、英国人講師による演劇ワークショップ**など海外からの招へいを伴う事業は、政府による水際対策措置の強化等により実施が不可能となった。**新日本フィルハーモニー交響楽団と文学座との地域拠点契約**によるアウトリーチプログラムは、日程を変更して実施することができた。 実施した事業においては、**君といた夏～スタンドバイミー可児～**の代替企画として **THE MOVIE みんなと繋ぐ『君といた夏』2022** の映像制作を実施した。参加者の中には、10 年以上前のプロダクションに子役として出演し、現在は地元を離れて国内・海外で舞台人として活躍している OB メンバーも参集することが可能となり、参加した子どもたちの変化や成長を共有できる機会になったとともに、本プロジェクトが生み出してきた文化芸術の人材育成（アーツワーカー）の成果が可視化される試みとなった。 その他、**みんなのディスコ**や**あーとま塾**においても、オンラインと対面のハイブリッド開催などを採用することなどで、前年度の事業計画よりも幅広い層の参加者に対し、事業参加へのアクセシビリティを高めるような工夫を施すことができた。 令和 4 年度は、新型コロナウイルスの影響も少なくなったが、対象となる全 32 事業のうち 3 事業が中止となり、9 事業も日程・会場・内容・方法等を変更するなど工夫を施しながらの実施となった。 **新日本フィルハーモニー交響楽団サマー・コンサート 2022** は、ピアニストの上原彩子さんが公演直前に新型コロナに罹患したため、延期公演を模索したが、調整が難しく中止せざるを得なかった。**シアターキャンプ**はコロナの影響による学校の経営破綻、**国際共同制作サマースクール**は、政府による水際対策措置の強化等により実施が不可能となった。

実施した事業においては、**君といた夏～スタンドバイミー可児～**は、92 名のキャストが参加したが、稽古をパートごとで分散して行い、また、一部のキャストをダブルキャストにするなど、コロナ対策を講じた。参加者一人ひとりが感染予防を心がけ、厳しいスケジュールを乗り越えてきたことで、公演を終えた時の達成感と参加者の一体感は非常に高くなり、多様な世代の参加者が強い絆で繋がった。

アウトリーチやワークショップなどは、令和 2 年度・3 年度の 2 年間は新型コロナの影響で多くの事業が中止となったが、令和 4 年度はごく一部を除いて実施することができ、コロナの影響で孤独・孤立傾向が露になった高齢者や乳幼児を抱える親子、児童などに対して、「つながりによるセーフティーネット」を回復する取り組みができ、今後の展開の足掛かりをつくることができた。

自己評価

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

下表は、平成 30 年度から令和 4 年度までの 5 か年における事業計画上の申請時予算額と報告時決算額および両者の実績差額と実績乖離を示したものである。

種別	H30 年	H31 年	R2 年	R3 年	R4 年
申請時予算額（千円）	76,015	65,450	19,514	114,540	130,676
報告時決算額（千円）	66,823	59,181	19,506	73,067	105,534
実績差額（千円）	9,192	6,269	8	41,473	25,142
実績乖離（%）	12.1%	9.6%	0.0%	36.2%	19.2%

分析：

平成 30・31 年度においては、**オーケストラで踊ろう！**や **To See You, At Last プロジェクト、世界劇場会議国際フォーラム、多文化共生プロジェクト、シアターキャンプ、英国人講師によるワークショップ**など、作品創造型のコミュニティ・プログラムおよび海外からの招へい型コミュニティ・プログラムにおいて、支出の申請時予算額と報告時決算額の間に一部乖離が生じていた。これらに関しては、渡航費や報酬額の負担割合、台本や舞台製作規模、同時通訳などの環境整備に関する細かな要因が未確定の状態で覚書に沿って予算案が建てられている場合が散見されたことから、その後、より実効性のある予算積算と適切な予算管理を心がけている。

令和 2・3 年度においては、新型コロナウイルスの影響により、事業の中止や規模縮小が相次ぎ、**令和 2 年度は全 21 事業のうち 12 事業、令和 3 年度は全 29 事業のうち 10 事業が中止となり、**また実施した事業においても、規模を大幅に縮小したものが多かったことなどから、申請時予算額から報告時決算額が大幅に乖離を生じる結果となった。また、中止に伴う出演補償として、それぞれの契約や覚書にて定めた補償金の支出が発生した。併せて、当館の主催・共催公演およびワークショップ・講座企画等の出演者およびスタッフ全てに PCR 検査の受診を義務付けたことにより、各事業において検査関連経費が膨らむことになった。

令和 4 年度においては、新型コロナの影響から**新日本フィルハーモニー交響楽団サマー・コンサート 2022** や**海外からの招聘が伴う事業など合計 3 事業が中止となり**、また**新日本フィルハーモニー交響楽団おでかけコンサート**や**児童・生徒のためのココロとカラダのワークショップ**など **7 事業は規模を縮小**せざるを得なかった。併せて、岐阜県の新型コロナ感染予防対策の変更などから出演者や参加者などに対して行う **PCR 検査を必要最小限に抑えることができた**ことから予算執行額が減額し、申請時の予算額から乖離が生じることになった。

（４）創造性（平成３０年～令和４年度　５か年分）

自己評価
事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

劇場・音楽堂等の資源について

◇キーパーソンの存在

これまで 14 年間に渡って、当館の事業計画が独創性、新規性、先導性を発揮するための「キーパーソン」であった**衛 紀生**が平成 2 年度で館長兼劇場総監督を退任、**平成 3 年度の５月から篭橋義朗が新館長に就任した。**篭橋は、可児市文化創造センター開館準備室事業計画係長としてアーラの建設と事務局立ち上げに携わり、平成 14 年度に開館。以後、初代館長・桑谷哲男、2 代目館長・衛 紀生を招聘し、その女房役の事務局長として 10 年間に渡り当館の経営に「二人三脚」で取り組んだ。前職は可児市教育長であり、可児市政・教育行政のみならず地元経済界にも明るく、可児市内外に緊密なネットワークを持ち合わせる人物である。

文化芸術プログラムの企画面における制作体制については、これまでの「劇場総監督主導」の体制から、新館長の下で、**各種の芸術ジャンルに専門的な知見と人脈を有しながら、さらに地域の課題やニーズ、ステークホルダーとのネットワークをも熟知した 3 人のチーフ級職員**（演劇・ダンス系：澤村 潤、音楽系：坂崎裕二、コミュニティ・プログラム：栗田康弘）による「**共同プロデュース体制**」を敷き、当面は、**衛が「シニアアドバイザー」**として月 1 ～2 回のペースで可児に赴き、事業計画立案上のアドバイスや内部ゼミ・外部向け研修プログラム等の監修にも携わる。

◇フランチャイズ団体・提携団体の存在

これまでに引き続き、国内の提携団体として、当館はそれぞれ高水準な芸術性と多様な文化芸術人材を発掘・養成するノウハウを持つ**新日本フィルハーモニー交響楽団**と**文学座**の 2 団体と「地域拠点契約」を結んでいる。これにより本公演のみならず、障がい者や乳幼児を抱える親たちが気兼ねなく楽しめるオープン・シアター・コンサートや夏休みの子供たちのために市民と一緒にお芝居をつくるプロジェクト、ワークショップや小中学校・福祉施設などに出向くアウトリーチ、鑑賞者との茶話会など、質の高い様々な活動を地域に提供している。

また、**英国リーズ・プレイハウス（LP）**との間で 2015 年 3 月に締結された「グローカル提携（人事交流および国際共同制作に関する提携)」があり、両館が共有する「地域に開かれ、地域と共に生きる劇場」という理念に沿って、高水準の鑑賞公演を制作するだけでなく、青少年が演劇を通じて出会い言葉を越えたコミュニケーションを共に発見する演劇プロジェクトや、クリエイティブ・エンゲージメント部門スタッフの指導による演劇ファシリテーター入門プログラムや学校ワークショップなどを通じて、英国におけるコミュニティ・アーツワーカー（地域課題に取り組む芸術家）の役割や実践を学んでいる。

事業の独創性・新規性・先導性について

①　独創性

多文化共生プロジェクト

市内の外国籍居住率が 7.9%という可児市において、様々な国籍の住民が文化芸術（主に演劇表現）を介して交流することで、お互いの限定されたコミュニティからより広い地域社会とつながることを目的としている。作品づくりを通じて協働し語り合い、作品を鑑賞した市民がそのルーツや文化的背景を知ることで、様々な国籍の住民が互いを尊重し合える寛容で生きやすい「多文化共生社会」を築こうという可児市特有の社会課題にアプロ

ーチしたプロジェクトであり、また我が国が今後直面することになる大きな課題に向けた先行的取り組みでもあることから＜**独創性**＞と＜**先導性**＞を備えていると考えている。また本プロジェクトでは、地域の外国人ネットワークに精通している市民アドバイザーや本プロジェクトに関心を持つ市民ボランティアが事業の下支えとして参加者集めや通訳、演出助手的なサポートをしており、本事業に必要不可欠な存在となっている。**このようにプロジェクトに共感する市民との協同こそがマンパワーが限られている劇場職員の下支えとなり、さらに市民が地域の様々な社会課題に関心を持つことで、より主体性を持ってプロジェクトに関わりながら事業を発展させていく可能性を秘めており、公共劇場における新たな事業運営の手法として＜新規性＞を備えている。**

② 新規性

リーズ・プレイハウスとのグローカル提携～日英国際交流事業『To See You, At Last プロジェクト』

劇場運営の理念を共有し、グローカル提携（人事交流および国際共同制作に関する提携）を締結する英国のリーズ・プレイハウス（LP）との国際共同制作であり、両国の青少年が演劇を通じて出会い、言葉を超えたコミュニケーションの可能性を共に発見していく意欲的なプロジェクトである。これまでの国際共同制作にはない切り口の新しい挑戦によって、アーラの掲げるミッション・ビジョンならではの社会包摂をベースとした国際ネットワークの構築・強化につながっており、今後、LP 所属のユースシアター活動や移民プログラムとの国際的かつ持続的な共創関係が実現すれば、SDGs（Sustainable Development Goals）の目標（子どもの貧困に関すること）にも貢献することのできる国際共同制作プログラムとして、新たな局面を開く可能性を秘めており、＜**新規性**＞を備えていると考える。

③ 先導性

ココロとカラダワークショップ

当館のプログラムの特徴は、障がい者や乳幼児を抱える親、高齢者、不登校の子どもたちなど「生きづらさを抱える人々（市民）の居場所づくり」を目指したコミュニティ・プログラムが豊富にある点である。ダンスアーティストの新井英夫、劇・あそび・表現活動の Ten Seeds といった「ココロとカラダワークショップ」の講師陣は、いずれも専門ジャンルで優れたスキルを有しているだけでなく、参加者が気持ちよく過ごせるよう、場を整えるコーディネーターとしても高い能力を有している。令和 2 年度からはコロナ禍で創意工夫し、対面のワークショップとは一味違う「オンラインならではの双方向性」を楽しむプログラムとなった。新しいコミュニケーションツールをうまく活かすことで「見守り機能」を発揮しており、少子高齢化社会の課題解決に対応する＜**先導性**＞を備えていると考える。

みんなのディスコ

障がいの有無、国籍、性別、世代などあらゆる垣根を越えて、音楽でひとつにつながる本プロジェクトでは、この目的に共感している地元アーティストやボランティアの市民が当日の飾りつけなどの準備や盛り上げ企画など運営に大きく携わっている。この事業目的への共感性のネットワークを多くの市民に広げていくことで、運営に携わるボランティアの増加と事業拡大につながると共に、そのことが多文化共生プロジェクトと同様に新たな事業運営としての＜**新規性**＞を備えている。またこの市民ボランティアとの協同事業におけるノウハウを広く公開することで、劇場・音楽堂等における＜**先導性**＞の役割を果たしている。

自己評価
事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につなげた（と認められる）か。
この 5 か年の総合支援事業の助成による事業の実施によって、当館の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）具体的な事象について以下に列挙する。 **◆マスメディアへの露出状況** **○新聞掲載件数：**（5 年通算）**169 件** 平成 30 年度：**31 件**／平成 31 年度：**42 件**／令和 2 年度：**25 件**（施設改修年度）／令和 3 年度 ：**35 件**／令和 4 年度：**36 件** **◆視察・実務研修の受け入れ状況** **○視察受け入れ状況**（5 年通算）**107 件** 平成 30 年度：**38 件（312 人）**／平成 31 年度：**36 件（312 人）**／令和 2 年度：**5 件（35 人）**／令和 3 年度：**10 件（286 人）**令和 4 年度：**18 件（383 人）** ＊その他、オンラインでのヒアリング多数 **○実務研修受け入れ状況：**（5 年通算）**2 件** 令和 2 年 12 月 10 日～16 日： 劇場音楽堂等スタッフ交流研修事業　河内律子（一般財団法人宇部市文化創造財団） 令和 3 年 6 月 16 日～10 月 10 日： 実務研修の受け入れ　三宅拓（公益財団法人豊田市文化振興財団） **◆芸術的な評価について** **○SNS 等での観客や参加者の反応** ・ala Collection シリーズ vol.12『紙屋悦子の青春』では、アーティスト・イン・レジデンスで交流した可児市民にわがまちの演劇作品という意識が芽生え、可児公演だけでなく東京公演やツアー公演も SNS にて PR を展開した。**主演の平体まひろが文化庁芸術祭賞新人賞を受賞**した際には、可児市民から電話や窓口で直接お祝いの言葉や「わがまちの誇り」という声もいただき、可児市への愛着やシビックプライドの醸成に寄与できた。 **・Facebook 登録者は平成 29 年度では 1,000 人未満であったが、令和 4 年度末時点で 1,965 人となった。**可児市内では、多くの情報を**月刊広報誌 ala Times** や**公式ホームページ**で得ていることもあり、Facebook においては、アーラの運営や事業に興味のある県外の登録者が比較的多くなっていると分析する。 ・また、長引くコロナ禍において、顧客の情報へのアクセシビリティを向上するとともに、観客や参加者との双方向的な情報交換が活発化することを目指して、**令和 3 年 4 月より Twitter の活用**も開始した。**令和 5 年 3 月末時点でフォロワー数 414 人**であった。 **・アーラフレンドシップ会員数は、平成 29 年 3 月末で 12,457 人（うち岐阜県在住　9,395 人）であったが、令和 5 年 3 月末で 17,424 人（うち岐阜県在住者 12,684 人）となり、5 年間で会員数が 28.5%増加した。**

○観客アンケート

・令和 4 年度 森山威男ジャズナイトの来場者アンケート

（毎年「森山威男ジャズナイト」を楽しみにしているお客様から）

「ジャズナイトもコロナ禍中止や延期になり、毎年の楽しみもオミクロン感染第 7 派で心配していましたが、今年は予定通り公演されてとても良かったです。森山さんの元気な演奏を聞くのが元気の源です。これからも元気でジャズナイト続けて下さい！！」（60 代・女性）

・令和 3 年度 ala Collection シリーズ vol.12『紙屋悦子の青春』可児公演の来場者アンケート

（国の緊急事態宣言発令による一部公演中止と客席が間引き設定された公演で鑑賞されたお客様から）

「せつなくて涙が出ました。内容も演技もすごくいいのに（新型コロナウイルスの影響で）大勢の人が観られないのが残念です。最後の拍手ももっと大きく出来たらよかったのに…と思います。このご時世で、心がちょっと弱っている、こんなときにこそ観られて本当に良かったです。」（70 代・女性）

・令和 4 年度 ala Collection シリーズ vol.13『百日紅、午後四時』可児公演の来場者アンケート

（本シリーズ初の新作書下ろしとしてアフタートークの回をご覧になったお客様から）

「ala の芝居作りの良さを「トーク」を通じて実感できました。今回のオリジナル脚本はとても良いし、俳優の皆さんもとてもすばらしい演技でした。人生、午後 4 時の輝きを体現してもらい、人生の終わりまで目一杯生きていきたいと思いました。」（70 代・男性）

・令和 4 年度シリーズ恋文 vol.11 の来場者アンケート

（アフタートークで出演者からアーラや可児市の話を聞いたお客様から）

「昨年に引き続き観劇しました。アフタートークでの北村さんと山田さんの、可児市に対する思いが、とても好意的で、凄く良かったし、同市民として嬉しく思いました。昨年の演者さんも良かったが今年も良かったです。アーラありがとう。」（50 代・男性）

・令和 4 年度新日本フィルハーモニー交響楽団「ニューイヤーコンサート」の来場者アンケート

（映画音楽を中心にした今回のプログラムを鑑賞されたお客様から）

「最初のスターウォーズのド迫力から映画のシーンが次々と蘇ってきました。さすが、新日本フィルの真骨頂を思い知らされた気がします。本物の音楽を孫たちにも聴かせたいと思いました。ポルカ、ワルツ、最高でした。車掌の笛や指揮者のＳＬの演出も最高でした。」

（60 代・男性）

○創造作品や出演者の受賞

・令和 3 年度 ala Collection シリーズ vol.12『紙屋悦子の青春』より

令和 3 年度（第 76 回）文化庁芸術祭賞芸術祭新人賞　平体まひろ（文学座）

・令和 3 年度 地域拠点契約／文学座公演「昭和虞美人草」より

令和 3 年度芸術選奨文部科学大臣賞　マキノノゾミ（劇作家・演出家）

○専門誌等での批評

ala Collection シリーズ vol.12『紙屋悦子の青春』では、読売新聞夕刊(2021 年 11 月 2 日付)の「10 月の演劇担当記者が振り返る」欄にて「文学座の若手、平体まひろが『紙屋悦子の青春』で好演した」(祐成秀樹記者)、「彼女の美しく無駄のない所作は、昭和の女性そのもの」(木村直子記者)など高い評価を得た。

ala Collection シリーズ vol.13「百日紅、午後四時」の劇評抜粋として、「今の日本はネットを中心にとげとげしい会話ばかり。鈴木聡の舞台は今の日本に対するささやかな抵抗なのかもしれない。」演劇ジャーナリスト山田勝仁氏や「予定調和的で先が読める面もあるが、一人一人の心や言葉の機微が入念に書き込まれていて、目の前の舞台を生きる俳優たちの芝居を観るのが楽しい。ちょっとした言葉の選び方に気が利いていて、さすが広告代理店のコピーライターとして数々の名作を残した鈴木の面目躍如というところ。人生百年を一日に例え、66 歳の一美の時間は「午後四時」という見立ても洒落ている。それがどう使われるかは観てのお楽しみ。悪人が一人として出て来ない高齢者のメルヘンのような舞台を思いっきり楽しんだ。」今村修氏（演劇評論家）などの評価を得た。

○第三者機関での実績

・ala Collection シリーズの国内ツアー公演（他の劇場による買取）

平成 30 年度 Vol.11『移動』：3 か所（宇都宮、長岡、四日市）

令和 3 年度 Vol.12『紙屋悦子の青春』：1 か所（長岡）

令和 4 年度 Vol.13『百日紅、午後四時』：4 か所（大府、豊田、長岡、能登）

・シリーズ恋文の国内ツアー公演（他の劇場による買取）

平成 30 年度：1 か所（能代市）

平成 31 年度：3 か所（豊田市、豊橋市、能代市）

◆社会的な評価について

○SNS 等での観客や参加者の反応

・令和 2 年 5 月、コロナ禍で先の見えない不安の中で家に閉じこもるしかない市民を勇気づけようと、令和 2 年 5 月に「**お元気ですかハガキ**」をワークショップ参加者や市民参加事業に参加していた市民などに職員直筆のメッセージを添えて 1,467 名に送付した。お礼のハガキやお礼の電話をいただき、「手紙が届いて嬉しくて涙がでました。アーラがあって良かった。コロナが収まったら、たくさん通います。」（60 代・女性）「みんなに会いたいですが、一人じゃないと思ったら自粛生活も頑張ろうと思えた。」（70 代・男性）など、コロナ禍で孤立しがちな高齢者などとの関係をつなぎ止め、希望へとつなげることができた。

・「**キミナツムービー**」では、YouTube 作品に切り替えたことにより、参加者同士が SNS で交流する機会ができた。「作品に関われたこともうれしかったけど、みんなと繋がれてうれしかった。」（20 代・男性）などコミュニティの維持に果たした役割も大きかった。

・**令和 4 年度市民ミュージカル「君といた夏」**では、実に 3 年ぶりの大型市民参加公演で今回初参加したひとりの出演者は次のように参加してみての思いを SNS 投稿している「人は一人では生きていけない。想い合える仲間がいてこそ強くなれる。そして、**仲間がいてこそ真摯に向き合った先に予想もしなかった大きなエネルギーの渦ができるんだと、この経験を通じて感じることができました。すべてすべて輝いていて、眩しくて、愛おしくて、心が震えました。また、素敵な仲間が増えて、幸せだなぁ♡と思っています！**ありがとうございま

した」参加した 92 人が半年間という長い時間の中で、それぞれに様々な経験とかけがえのない仲間と思い出を共有する場となっている。また、過去に参加した出演者が今回は観客として本作品を鑑賞した感想を次のように SNS で投稿「アーラという場所で、素晴らしいスタッフと素敵な仲間たちと、濃密でハードな時間を過ごすことで生み出される奇跡のようなステージ。そして、**一度でも関われば、いつでも帰って来られるあたたかさ。開演前や開演後、あちこちから聞こえる、久しぶり!元気だった?の声。自分もその一員であることに、こうやって帰る場所があることに、ようやくコロナ禍が終息しようとしていることに、しみじみ幸せを感じるのでありました。**」このように市民参加公演を通じて出来た＜仲間同士のつながり＞は、決して色あせることなく、その後何年も続いていく。そしてその＜市民とのつながり＞がある限り、**アーラという劇場が市民にとってアーラのミッション「思い出の詰まった人間の家」としての機能を果たしている。**

・「**みんなの同窓会**」は、アーラの市民参加企画や多文化共生プロジェクトなどに参加した市民、スタッフが年に一度再会するもう一つの我が家のような場所で、令和 3 年度は新型コロナウイルスの影響で 9 月 4 日にオンラインでの開催となった。「シャンソンを習い始めた」「配信で表現活動を始めた」など多くの方がコロナ禍を機に新しいことを始めたことを報告しつつ、出演した公演時の思い出話に花を咲かせ、「大きくなったね～」とこどもたちの成長を喜び合い、後日参加いただいた方から、「みんなの成長、そして繋がっていることが、自分にとっては喜びです」（60 代・女性）とメールがあり、「遠くにいてもあの頃に戻れる場所がある。その場所とは建物のことではなく「思い出」とそこに集まる「人」のことなのだ」と熱く語る参加者（50 代・女性）もおられた。

○YouTube での公開映像

・多文化共生プロジェクト 2020『Trabalho トラバーユ～ある、わたしの人生』　**1,111 回再生**
・森山威男 TRIO JAZZ LIVE　3 部構成　**のべ 9,370 回再生**
・THE MOVIE みんなと繋ぐ『君といた夏』2022　**1,908 回再生**
・劇場に関わる人のための『あーとま塾 2022』特別篇　**201 回再生**
・アーラ紙芝居一座『うさきちとカメ太とカメ次郎』A と B チーム**のべ 531 回再生**

○参加者アンケート

・ココロとカラダの健康ひろば（2022 年度）のアンケート調査結果

「気軽に話せる友達ができた」96%、「WS 以外で仲間づくりの機会があれば参加したい」92%、「ココロとカラダの健康維持につながった」96%→心身の健康に優位に作用、人と人とがつながり支え合う関係構築に寄与、その後、コロナ禍においては、参加者同士で互いに電話や SNS で連絡を取り合うなど「緩やかなセーフティーネット」に発展した。

・親子 de 仲間づくりワークショップ（2022 年度）のアンケート調査結果

「育児ストレスの軽減になった」100%、「子どもの接し方の参考になった」100%、「子どもの新しい一面に気づいた」100%→子育て支援として機能、「育児ストレスの解消」など支え合う友達関係に寄与。

・多文化共生プロジェクト「BORDER」（2022 年度）の来場者アンケート

「『ボーダー』という言葉はマイナスのイメージがありました。（壁のようなイメージ）でも、自分を表すものとして、大切にすることも必要だと思うし、その**ボーダーを認め合える社会が幸せになれる社会だと気づきました。**

今日、この時に「笑えた」ことが幸せです。ありがとうございました。(40 代・男性)」
「**とにかく圧倒されました！なぜかわからないけど、涙が止まりませんでした。**でも、途中から**「ボーダー」っていう言葉が、「いいんだよ」っていう優しい言葉に聞こえてきた瞬間がありました。あえて作らないといけない、ボーダーもあるんだっていうことが、一番の気づきでした。**ありがとうございました。(40 代・女性)」
「大変すばらしい内容でした。気づかされたことが多々ありました。**BORDER はない方が良いと思っていましたが、あっても良いと教えていただきました。**毎年、毎年、ありがとうございます。(50 代・男性)」
→ドキュメンタリー演劇として今回は「BORDER」(境界線) をテーマに作品を創作した。上記のようにアンケートからテーマへの高い関心とそのメッセージ性が観客の共感性を強く刺激していることがうかがえる。多文化共生への理解を深め、共生社会への促進に寄与したといえる。

・おでかけ落語会（2022 年度）での学校の先生アンケート
「生徒にとって大変貴重な経験ができ、ありがたかったです。日本の文化にふれるよい機会となりました。**想像力があるから「笑える」「楽しめる」というお話に納得です。**(東可児中学校・教員)」
「来て頂いた桂やまとさん終始ひきこまれる落語と、落語という文化の話に生徒も職員も大変楽しみつつ、学ばせていただきました。落語という普段あまり生で見ることのない伝統芸能の奥深さも知れました。また、**人生で最も大切にして欲しいと言われた「他人の気持ちを想像すること」というお言葉は落語という枠を越えて、生徒の心に響いていました。**(西可児中学校・教員)」
→本物の落語家による話芸は観る者の心を掴み、伝統芸能の魅力を伝えることはもちろん、思春期で多感な生徒たちだからこそ、見えない相手の心を想像することの大切さを一流の芸を通して体感する場となった。

〇著名人の評価・さまざまな専門誌等（文化芸術ジャンル以外）での特集
・姜 尚中（東京大学名誉教授／政治学）
「…この間、岐阜県可児市にある、文化創造センターというところを見学に行ったんです。…ここでは高いお金を出して劇を見たりコンサートを楽しむのではなく、そういう場を可能な限り安く提供するにはどうしたらいいかを工夫して、貧困世帯の子どもに高校生が勉強を教えたり、市民参加プロジェクトを率先してやっています。…ある種の社会的機能を建物に持たせている。…弱者をウエルカムして、取り込んでいく。取り込んで序列化するのではなく、取り込んだ人同士の関係性をうまく扱っていこうという相互扶助がちゃんと行われている…」
(『世界最終「戦争」論 近代の終焉を超えて』集英社新書 2016（内田樹と共著）より抜粋・P243-)

・湯浅 誠（社会活動家／東京大学先端科学技術研究センター特任教授）
「この 10 年で、観客数を 3.7 倍に増やした劇場がある。可児市文化創造センター・アーラ（ala)。岐阜県可児市立の公立劇場だ。世界的に著名なオーケストラ指揮者を呼んだのか？人気芸人と特別なパイプでもあるのか？どちらでもない。地元の人たちに、アートを通じた体験の機会を多様に提供してきたのだ。何のために？生活課題・社会的課題の解決のために。…社会的包摂の推進に、アートが果たせる役割はとても大きいーー大きな収穫のあるインタビューだった。」(『劇場は、芸術ではなく、人のためにある 観客数を 3.7 倍にした劇場がやっていること』Yahoo!ニュース 2018 より抜粋)

・**『社会的処方～孤立という病を地域のつながりで治す方法』**（西智弘編 第 11 回不動産協会賞（2020）受賞）
「…ala が配るクリアファイルの表には「WE ARE ABOUT PEOPLE, NOT ART（私たちは崇高な芸術ではなく『人間』についての仕事をしている）」の文字が刻まれている。これからの劇場、そしてそれを取り巻くアートの数々がもつ社会的包摂の機能は、社会的処方としての大きな可能性を秘めた分野だ。」（6 章「リンクワーカーから見た社会的処方のタネ」より抜粋 p184-191）

・これからの地方自治を創る実務情報誌『月刊ガバナンス』2021 年 10 月号（ぎょうせい）
「もともと保険医療の分野で進められてきた社会的処方の視点を、文化社会政策として再構築しようとしているのが岐阜県可児市だ。同市文化創造センター（愛称・アーラ）では 2008 年度から、「アーラまち元気プロジェクト」という社会包摂型のコミュニティ・プログラムを実施。外国籍市民、障がい者、子ども、高齢者などが直面する課題にアートの側面から斬りこみ、目覚ましい成果を挙げてきた。次に向かうのが、芸術文化の社会包摂機能を全面展開させて地域の教育・福祉・保健医療・多文化共生等の領域とつなげていく、社会的処方箋の実践活動だ。」（キャリサポ特集 カギは“つながり”！「社会的処方」が秘める可能性 取材リポート岐阜県可児市「社会包摂型劇場経営から社会的処方箋の実践拠点へ」より抜粋 p48-50）

○第三者機関での実績（Social Return On Investment(SROI）社会的投資利益率）
可児市が有限責任監査法人トーマツに委託して行った調査で、SROI 測定ツールセットを用い、**インプット（講師料や職員人件費や事務経費）**に対して、以下の**アウトカム（参加者の孤立感の減少、自己肯定感の向上、地域活動への参加）**があったと検証された。SROI 値が 1.0 以上で投資効果がコストを上回ると判断される。
・**平成 30 年度：**ココロとカラダの健康ひろば（高齢者）・・・**3.47**
親子 de 仲間づくりワークショップ（乳幼児とその親）・・・**1.46**

・**令和 2 年度 ：**ココロとカラダの健康ひろば(高齢者)・・・**0.67**
新型コロナウイルスの影響による人数制限とオンライン対応による孤立感の減少効果の低減によってアウトカムが減少し、SROI 値が 1 .0 倍を切った。前回と 3.47 から大幅減となったこの結果から、**人が集い、対面にて（直接的に向き合って）ワークショップを行うことの必要性・有効性が改めて証明された。**
・**令和 3 年度：**親子 de 仲間づくりワークショップ（乳幼児とその親）・・・**2.04**
ミュージカル『君といた夏』代替企画～THE MOVIE みんなと繋ぐ『君といた夏』・・・**1.48**
就学前教育のための非認知能力開発ワークショップ（外国籍の幼児）・・・**1.38**

○地域社会にもたらした変化（可児市文化創造センターの仲介等によるコレクティブ・インパクト）
・**岐阜県教育委員会×文学座**　県立高等学校でのコミュニケーション・ワークショップ
・**岐阜医療科学大学×文学座など**　医療系大学におけるコミュニケーション力養成の授業
・**可児市×コカ・コーラボトラーズ・ジャパン㈱**　「私のあしながおじさんプロジェクト寄付型自販機」の設置
・**ala×可児市教育研究所×市内のさまざま社会機関および市民活動者**　「文化芸術版社会的処方箋活動」に関する話し合いの場「まち元気そうだん室ラウンドテーブル」の設置

（５）持続性（平成３０年～令和４年度　５か年分）

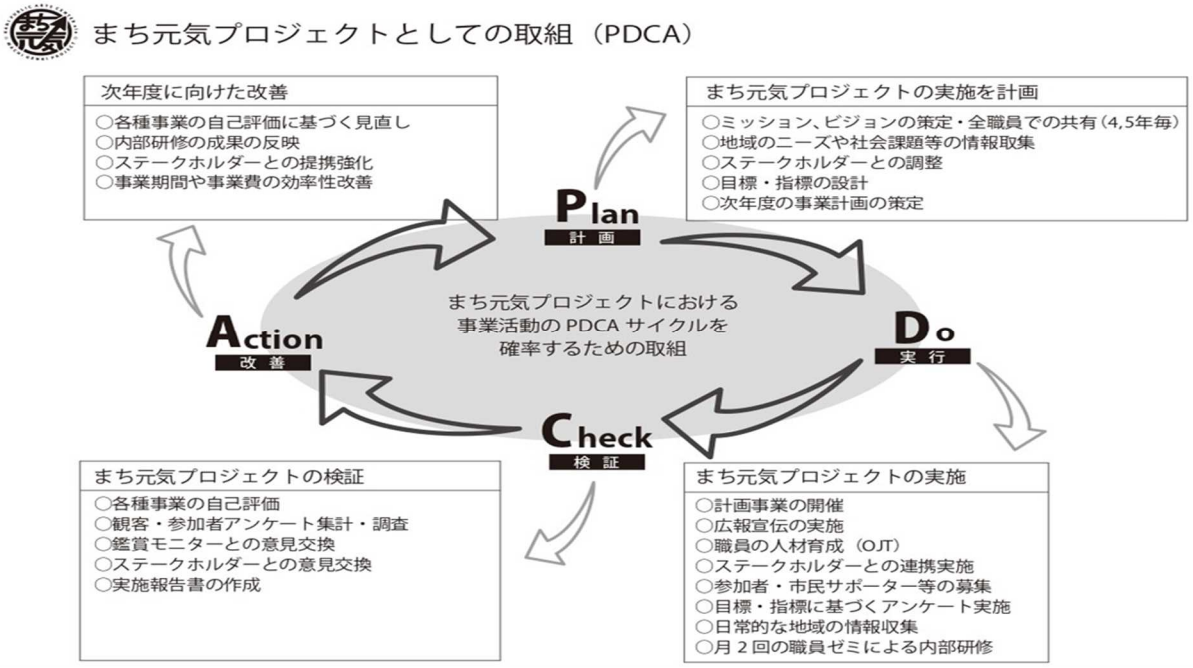
自己評価
事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
事業運営戦略 当館の事業は、戦略目標に定める「３本の矢」の考え方に沿ってプログラミングされ、芸術愛好者・市民・アーラから最も遠いところにいる人々（子ども・高齢者・外国人・障がい者など）それぞれの対象者が事業参加を通じて豊かな「つながり」を獲得できるよう**継続的に実施する**ことで、文化芸術がコミュニティの細部まで浸透し、社会を健全化し、**その環境（マーケット）変化によって劇場の鑑賞者や支持者の開発につなげることを目指してきた。** しかしながら、新型コロナウイルスの影響により事業実施が困難になると、社会関係資本である「つながり」の維持も同時に困難となり、分断され、**社会生活を営む大人の生活以上に子どもの成長過程に大きな影響を及ぼすことが懸念されている。**当館でも、全ての市立小・中学校と不登校教室「スマイリングルーム」の児童・生徒に向けたアウトリーチや演劇等ワークショップが事実上２年間に渡って中止またはオンライン開催を余儀なくされているなどの要因で、地域における不登校児童・生徒数の割合は上昇しており、また、保護者の収入減少による経済的な困窮なども相まって「こどもの社会的孤立」や「つながりの貧困」が深刻度を増している。令和４年度には、課題の緩和に向けて市の教育委員会との連携を強化し、不登校問題を軸に芸術文化のスキルを活かす新しい役割を担うことについての具体的な戦略を構想しており、**今後５年間（令和５～９年度）で、これまで培った文化芸術プログラムと地域の人的リソースを最大限に活かした「文化芸術版社会的処方箋活動～『まち元気プラットフォーム（持続可能な地域の支え合いのネットワーク）』」の本格的な構築**に取り組んでいく。 **経営（財務）戦略** 当館の主たる財源は、可児市からの指定管理料、国等の補助金・助成金収入（本事業、市委託料、一般財団法人地域創造等）、事業収入（入場券販売収入、公演販売収入等）、施設利用料収入などであった。 指定管理料については、令和２年度に指定管理者の再指定（令和３年度～7 年度）を受けており、財務規模も引き続き安定している。また、海外との国際共同制作に向けては、万博記念基金等、民間助成金の活用についても検討を始めている。併せて、「文化芸術版社会的処方箋活動」の推進に当たっては、可児市内のさまざまなステークホルダーや地域のキーパーソンとのネットワーキングを構築し、民間ステークホルダーによる休眠預金事業（休眠預金等活用法に基づく社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度）の受託・活用を検討していく。 事業収入・施設利用料収入については、当初から施設の大規模改修による減収を見込んでいたが、新型コロナウイルスの影響が追い打ちをかけて、当初の見込みより厳しさを増している。今後に向けて、資金調達の多元化を図るため、**コミュニティ・プログラム（社会包摂事業）の強化によるパートナーシップ（寄付金収入）の本格導入に向けた広報アピール戦略として CRM(Cause related marketing）の強化に力を注いでいる。** また、企業との CSV (Creating shared value)の試みとして、可児市とコカ・コーラ・ボトラーズ・ジャパン㈱の包括提携を機に、「私のあしながおじさんプロジェクト」の寄付型自販機（2 台）を提供いただいており、更なる設置協力を地元企業に向けて働きかけを行っていく。（＊売上の 20%を同プロジェクトの原資に充当できるしくみ） **人事戦略** これまで市派遣職員が担ってきた管理職のポジションについては、令和２年度の衛紀生館長兼劇場総監督の退任と令和３年度の篭橋義朗新館長の就任を視野に、文化芸術の専門性（企画プロデュース能力）と持続性の強化を鑑みてプロパー職員の管理職登用（課長級３名）を進めてきた。

また、市派遣職員の引き上げとプロパー職員の退職等に伴い、令和 3 年度からは 20～40 歳代のプロパー職員を 7 名新規に採用。劇場運営経験者 3 名、文化芸術系財団プロパー 1 名、ＮＰＯ運営等経験者、学校教員経験者、大学院修了の新卒者各 1 名で、年齢構成や適材適所の経験値など組織活動のバランスを考慮に入れて人選を行った。

職員の人材養成として、月 2 回の「館長ゼミ」を設け、全職員での事業ミッションの共有および戦略立案に必要となる知見を深めてきたが、令和 4 年度からは「館長ゼミ」と「職員自主ゼミ」に分割し、全ての職員が理論と実践の課題やギャップを言語化し、それぞれが主体的に所掌業務の検証・改善案を提言できる機会を設けることで、経営感覚と現場理論をバランスよく身につけることを目指して行く。また、令和 5 年度からは総務課に経験豊富な人材育成担当の管理職級（プログラム・ディレクター）を設け、新人研修プログラムの通年指導や劇場インターンシップ制度の導入などに着手することで、組織ガバナンスの強化および自社のビジョンに沿った人材育成の推進を実現するなど、業界全体を俯瞰できる人材に育て上げることで、若手職員の将来へのキャリアパスを作り上げるしくみを設けていく。また、中堅職員の独立行政法人日本芸術文化振興会への派遣（2 年間）や、当館と「グローカル提携（人事交流および国際共同制作に関する提携)」を結ぶ英国リーズ・プレイハウスとは、事業実施や文化庁新進芸術家海外研修制度などの活用を通じて継続的に人事交流や情報交換の機会を設けており、当館運営上のロールモデルとして職員のモチベーションを高める重要なファクターとなっている。

各方面とのネットワークの構築

前述のコミュニティ・プログラム（社会包摂事業）の強化施策については、令和 5 年度より可児市における「文化芸術版社会的処方箋活動」の実装を目指しており、当館がこれまで培ってきた可児市内のさまざまな社会機関やステークホルダーとの協力関係を再構築・強化するため、取り組みに関する意見聴取および話し合いの場として「まち元気そうだん室ラウンドテーブル」を設けてきており、市内中高生の文化活動機会の確保と多世代のつながり醸成の両立を目指しているが、これらの役割は財団職員や学校の教職員がこれまでの所掌業務を維持しながら同時に担うことは不可能であり、今後は地域の社会機関・民間ステークホルダー・アーティストとの関係を編み直すことで、その緩和策を地域や市民活動と協働で考えることが必要不可欠な要素となってくる。地域社会全体が、アフターコロナの日常における人々のメンタルヘルス維持とレジリエンス（回復力）獲得を目指して協力して行く上で、**公共劇場がその「プラットフォーム」として機能するための環境整備や財源確保、ネットワーク構築の道筋については、令和 5 年度から引き続き継続的な話し合いの場を設けて推進するとともに、具体的な「プログラム共創化」の取り組みに着手していく。**



自己評価
持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。
新型コロナウイルス感染症の長期化が地域社会にもたらした影響は、この 3 年間、当館の「機能強化」に向けた事業の推進およびそのアウトカムの発現にとっても大きな阻害要因となってきた。しかしながら、同時にコロナ禍の経験を通じて、地域社会に存在するこれまで見えにくかったたくさんの「機能不全」がよりはっきりと「見える化」したのではないかと考えている。 その最たるものが地域社会におけるさまざまな社会関係資本である**「つながり」の機能不全**であり、地域経済や国民生活を循環させるマーケティングにおいてもかけがえのないこの資源の回復は、我々公共劇場に関わるものにとっても喫緊の課題であると捉えている。 可児市文化創造センター・アーラでは、これまで培ってきた「鑑賞者開発」「市民の主体的参加」「社会包摂機能」のノウハウを最大限に活かしながら、ロジックモデルに掲げる初期・中間・最終アウトカムの実現・定着に向けてあらゆる層の市民と「鑑賞（消費）行動」を前提とした関係だけではなく、豊かな地域生活を育むための「価値共創」を目指した協力関係を結ぶことを目指してきた。しかしながら、**コロナ禍を経たこれからの地域社会において社会関係資本（つながり資源）を回復することは、従来よりも多くのハードルを越えなければならなくなったことは言うまでもない。** 「鑑賞（消費）行動」と「価値共創」を両立させながら、持続的なアウトカムの発現・定着を実現するということは、「現状を維持していく」ということと同義ではない。「（2）有効性」の冒頭でも述べた通り、今回の成果報告書の分析結果や現在の社会状況は、「従来のロジックモデルにアフターコロナにおけるさまざまな社会変容を加味した上で、アウトカム発現の可能性を高めるための更なる手立てを講じることが必要となってきている」ことを指し示しているだろう。 すなわち、持続的なアウトカムの発現・定着を実現していくために、当館がミッション、ビジョンに掲げる「新しい価値による行動の『変化』とその『生き方』を提供する社会機関としての役割を果たすこと」こそが、今、地域社会から強く求められているのだということが、当館としての基本認識であり、そのために必要な事業収益の増加、資金調達環境の向上、社会的コスト・受益者負担の軽減を実現する**「社会包摂型劇場経営」の体系化**と**「文化芸術版社会的処方箋活動～『まち元気プラットフォーム（持続可能な地域の支え合いのネットワーク）』」の本格的な構築の実践拠点としての役割**を、当館が単独で目指すのではなく、行政、学校、地域の社会機関、市民活動、民間企業、理念を同じくする全国の劇場・音楽堂など、さまざまな立場のステークホルダーとの理念共有と価値共創（Co-creation）によって発展・実現を目指すことで、次なる 5 年間における持続的なアウトカムの発現・定着を期待することができると考えている。